

令和3年度

埋蔵文化財調査年報



神戸市西区中村群集墳

令和6（2024）年3月
兵庫県立考古博物館

例 言

1. 本書は令和3年度に兵庫県教育委員会・公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが実施した埋蔵文化財調査事業にかかる年報である。
2. 発掘調査及び出土品整理については、兵庫県立考古博物館が調整業務を行い、兵庫県教育委員会が公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部に委託して実施した。それ以外の事業については兵庫県教育委員会・兵庫県立考古博物館・公益財団法人兵庫県まちづくり技術センターが協力して実施した。
3. 「第2章 発掘調査業務の概要」は旧国別に編集し、播磨、但馬、丹波の順に掲載している。
4. 本文中の事業者および事業名は発掘調査実施当時の名称としている。
5. 本文中に使用した遺跡の位置図は、国土地理院発行の電子地形図25,000を使用している。
6. 遺跡調査番号は各年度の発掘調査毎に個別に付した番号であり、令和3年度は「2021」で始まる7桁の数字で表記している。
7. 本書は発掘調査成果を速やかに公表することを目的として刊行するものであり、調査成果についてはまだ十分な検討を終えていない。このため今後の出土品整理により、本書の記載内容と異なる検討結果が得られる可能性がある。その際は後日刊行される発掘調査報告書をもって内容の修正を行うものである。

目 次

第1章 埋蔵文化財調査事業の概要	1
1 調査の体制	1
2 発掘調査事業の動向	1
3 出土品整理事業の動向	1
4 調査一覧	2
第2章 発掘調査事業の概要	7
1 曙町遺跡（神戸市西区）	8
2 玉津田中遺跡（神戸市西区）	11
3 中村群集墳（神戸市西区）	17
4 池尻東山遺跡（小野市）	21
5 市場南山1号墳（小野市）	24
6 天神条里（加東市）	26
7 上戸田遺跡（西脇市）	28
8 登り田遺跡（姫路市）	31
9 有年牟礼・井田遺跡（赤穂市）	37
10 中村遺跡（養父市）	39
11 住吉川右岸遺跡（丹波篠山市）	42
第3章 出土品整理事業の概要	45
第4章 市町支援事業の概要（市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業）	47
1 事業の概要	47
2 市町職員研修	47
第5章 発掘調査・出土品整理にかかる普及公開事業の概要	48
1 現地説明会等の開催	48
2 発掘調査速報パネル展示	49
3 発掘調査の状況をHPで情報発信	49
4 ひょうごの遺跡の刊行	49
5 「発掘体験～掘ってみよう むかしの遺跡～」の実施	50
6 バックヤード見学ツアーの開催	51

第1章 埋蔵文化財調査事業の概要

1 調査の体制

平成24年度に調査部門である埋蔵文化財調査部を県立考古博物館から（公財）兵庫県まちづくり技術センター（以下、「センター」）へ移管して以来、国及び県が実施する開発事業に伴う調整、発掘調査計画の策定、事業地内の埋蔵文化財の状況を把握するための分布調査・確認調査・小規模な本発掘調査及び工事立会については県立考古博物館総務部埋蔵文化財課（以下、「埋蔵文化財課」）が担当し、大規模な本発掘調査及び出土品整理作業については県教育委員会から委託を受けたセンター埋蔵文化財調査部が実施している。

それぞれの職員構成は、埋蔵文化財課が4名、センター埋蔵文化財調査部が調査課2課と整理保存課の計3課で21名である。以下で説明するように、県新規採用職員の派遣、センターでの県OB職員・臨時的専門職員の任用により、発掘調査体制を整えた。

センター埋蔵文化財調査部職員の内訳は、12名が県派遣職員、6名が県OB職員、3名が臨時的専門職員である。また出土品整理については、27名の整理技術嘱託員が接合・復元・実測・保存処理等の作業を担当した。

2 発掘調査事業の動向

平成28年度は発掘調査量が激減し、平成以降最も少なくなったが、平成29年度には一転して増加し、その後は横ばいとなっている、令和3年度は前年度に比べて若干増加したものの、ほぼ同じ量を保っており、これは西日本高速道路株式会社による国道2号（第二神明道路）建設や、県中播磨県民センター姫路土木事務所による事業間連携河川事業など、高規格道路や大規模治水事業に伴う発掘調査が佳境を迎えていることとその他県土木事業に伴う発掘調査が継続的に存在していることによる。

令和3年度に実施した調査は「4 調査一覧」のとおりである。内訳は本発掘調査が16件、分布調査が77件、確認調査が49件、工事立会が12件である。本発掘調査のうち13件はセンターが、3件については埋蔵文化財課が実施した。センターが受託した本発掘調査13件の内訳は、国事業・他に伴う調査が6件、県事業に伴う調査が7件、受託事業の調査面積は約28,000㎡である。

3 出土品整理事業の動向

出土品整理事業については県教育委員会からの委託を受けたセンター埋蔵文化財調査部が実施した。国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所による北近畿豊岡自動車道建設、同兵庫国道事務所による西脇北バイパス建設、同姫路河川国道事務所による一般国道2号姫路バイパス改築など、過去の大型道路事業に伴う出土品整理を、新規着手のものも含めて継続的に実施するとともに、県砂防事業・道路事業等に伴うもの、新温泉町への支援事業として残土処分場整備事業に伴うものを実施し、前年度に比べ事業量は微増した。

令和3年度に実施した出土品整理事業は17件、内訳は国事業が6件、県事業が10件、市町事業（新温泉町）が1件である。うち4件について発掘調査報告書を刊行した。

4 調査一覧

1 本発掘調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間			調査の概要
2021001	曙町遺跡	神戸市西区曙町	健康福祉部障害福祉局ユニバーサル推進課	ひょうご障害者総合トレーニングセンター（仮称）整備事業	2021/4/6	～	2021/7/21	古墳時代の集落
2021002	登り田遺跡	姫路市継	中播磨県民センター姫路土木事務所	事業関連携河川事業	2021/4/5	～	2021/12/24	奈良時代の官衙関連遺跡
2021003	玉津田中遺跡 (No. 164地点)	神戸市西区平野町	西日本高速道路(株)第二神明道路事務所	一般国道2号（第二神明道路）建設事業	2021/6/28	～	2021/10/8	弥生時代～中世の集落
2021004	有年牟礼・井田遺跡	赤穂市有年牟礼	国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所	一般国道2号相生有年道路改築事業	2021/4/13	～	2021/6/3	弥生時代の集落
2021005	天神条里	加東市椅鹿谷	北播磨県民局加東土木事務所	(主) 小野藍本線（天神バイパス）道路改良	2021/5/11	～	2021/6/18	古墳時代～中世の集落
2021006	上戸田遺跡	西脇市上戸田	国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所	一般国道175号西脇北バイパス事業	2021/7/6	～	2021/12/23	弥生時代の集落
2021008	池尻東山遺跡	小野市池尻町	北播磨県民局加東土木事務所	(主) 小野藍本線（天神バイパス）道路改良事業	2021/7/15	～	2021/10/7	奈良時代の集落
2021010	中村遺跡	養父市大屋町	但馬県民局養父土木事務所	(主) 養父穴栗線門野バイパス道路改良事業	2021/8/11	～	2021/10/11	弥生時代の集落
2021015	玉津田中遺跡 (No. 175地点)	神戸市西区平野町	西日本高速道路(株)第二神明道路事務所	一般国道2号（第二神明道路）建設事業	2021/5/10	～	2021/7/6	弥生時代～中世の集落
2021073	長谷寺旧伽藍	佐用町奥長谷	西播磨県民局光都土木事務所	(砂) 森谷川砂防堰堤工事	2021/6/21	～	2021/6/25	中世の集落
2021083	耳谷草山26号墳	豊岡市日高町	国土交通省近畿地方整備局豊岡河川国道事務所	北近畿豊岡自動車道日高豊岡南道路山本地区法面対策工事	2021/7/5	～	2021/7/16	古墳
2021085	市場南山1号墳	小野市池尻町	北播磨県民局加東土木事務所	(主) 小野藍本線（天神バイパス）道路改良事業	2021/7/15	～	2021/10/23	古墳
2021089	中村群集墳	神戸市西区平野町	西日本高速道路(株)第二神明道路事務所	一般国道2号（第二神明道路）建設事業	2021/10/4	～	2022/1/26	古墳
2021091	玉津田中遺跡 (No. 175地点)	神戸市西区平野町	西日本高速道路(株)第二神明道路事務所	一般国道2号（第二神明道路）建設事業	2022/1/11	～	2022/1/14	弥生時代～中世の集落
2021092	西神N. T. No. 61地点遺跡	神戸市西区	西日本高速道路(株)第二神明道路事務所	一般国道2号（第二神明道路）建設事業	2021/9/22	～	2021/11/1	古墳
2021126	住吉川右岸遺跡	丹波篠山市味間南	丹波県民局丹波土木事務所	西脇篠山線道路改良事業	2022/1/25	～	2022/3/10	古墳時代～古代の集落

2-1 分布調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間			調査の概要
2021018		豊岡市出石町	但馬県民局豊岡土木事務所	社会資本整備交付金事業	2021/4/7			埋蔵文化財なし
2021019		香美町村岡区	但馬県民局新温泉土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業(急)和田(3)	2021/3/24			埋蔵文化財なし
2021021	城山刻印群	芦屋市奥山	神戸県民センター六甲治山事務所	地域防災対策総合治山事業	2021/4/20			埋蔵文化財あり
2021022	西光寺谷1～62号墳	豊岡市九日市上町	但馬県民局豊岡土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業（急）九日市上町地区	2021/5/10			埋蔵文化財あり
2021023		豊岡市竹野町下塚	但馬県民局豊岡土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業(急)下塚	2021/5/11			埋蔵文化財なし
2021024		豊岡市日高町佐田	但馬県民局豊岡土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業(急)佐田	2021/5/11			埋蔵文化財なし
2021025		豊岡市日高町夏栗	但馬県民局豊岡土木事務所	砂防事業(砂)夏栗谷川	2021/5/10			埋蔵文化財なし
2021026	岩本城址	豊岡市吉井	但馬県民局豊岡土木事務所	砂防事業（砂）吉井西南谷川	2021/5/10			埋蔵文化財なし
2021027	宮本奥9号墳、尊行寺1～13号墳、柏谷1～9号墳、小谷1～25号墳、コウロギ古墳、コウロギ1～15号墳	豊岡市中郷	但馬県民局豊岡土木事務所	砂防事業（砂）市谷北谷川	2021/5/10			埋蔵文化財なし
2021028		豊岡市九日市上町	但馬県民局豊岡土木事務所	急傾斜事業（急）九日市上町(2)	2021/5/10			埋蔵文化財なし
2021029		豊岡市目坂	但馬県民局豊岡土木事務所	砂防事業（砂）目坂北谷川	2021/5/11			埋蔵文化財なし
2021030		豊岡市日高町佐田	但馬県民局豊岡土木事務所	急傾斜事業（急）佐田Ⅱ	2021/5/11			埋蔵文化財なし
2021031		豊岡市奈佐	但馬県民局豊岡土木事務所	河川事業（一）円山川水系奈佐川	2021/5/10			埋蔵文化財なし
2021032		香美町香住区	但馬県民局新温泉土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業(急)単人	2021/5/13			埋蔵文化財なし

2-2 分布調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間		調査の概要
2021033		新温泉町藤尾	但馬県民局新温泉土木事務所	県単がけ対策事業(急)藤尾	2021/5/13		埋蔵文化財なし
2021034		新温泉町古市	但馬県民局新温泉土木事務所	県単がけ対策事業(急)古市	2021/5/13		埋蔵文化財あり
2021035		新温泉町熊谷	但馬県民局新温泉土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業(急)仁蓮寺	2021/5/13		埋蔵文化財なし
2021038		豊岡市上佐野	国土交通省近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所	北近畿自動車道路	2021/4/19		埋蔵文化財あり
2021040	西山古墳群	朝来市和田山町	但馬県民局養父土木事務所	(砂) 大谷川通常砂防事業	2021/4/26		埋蔵文化財なし
2021041		養父市八鹿町	但馬県民局養父土木事務所	(砂) 平谷川通常砂防事業	2021/4/26		埋蔵文化財なし
2021042		養父市八鹿町	但馬県民局養父土木事務所	(砂) 駅前川通常砂防事業	2021/4/26		埋蔵文化財なし
2021043	三月野 1～11号墳	養父市大塚	但馬県民局養父土木事務所	(砂) 本郷谷川通常砂防事業	2021/4/26		埋蔵文化財あり
2021044		養父市高柳	但馬県民局養父土木事務所	(急) 万々谷急傾斜地崩壊対策事業	2021/4/26		埋蔵文化財なし
2021045		養父市高柳	但馬県民局養父土木事務所	(砂) 高柳川通常砂防事業	2021/4/26		埋蔵文化財なし
2021051	本庄丸山城跡	三田市東本庄	神戸県センター六甲治山事務所	予防治山事業	2021/5/13		埋蔵文化財あり
2021054		宍粟市山崎町	兵庫森林管理署	立木販売事業	2021/5/18		埋蔵文化財なし
2021055		宍粟市山崎町	兵庫森林管理署	立木販売事業	2021/5/18		埋蔵文化財なし
2021056		宍粟市山崎町	兵庫森林管理署	立木販売事業	2021/5/18		埋蔵文化財なし
2021057		宍粟市波賀町	兵庫森林管理署	立木販売事業	2021/5/18		埋蔵文化財なし
2021059	耳谷草山古墳群	豊岡市日高町	国土交通省近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所	北近畿自動車道路	2021/5/28		埋蔵文化財あり
2021061		朝来市桑市	但馬県民局養父土木事務所	(砂) 上溝谷川通常砂防事業	2021/6/11		埋蔵文化財なし
2021062		朝来市桑市	但馬県民局養父土木事務所	(急) 溝谷(2)地区急傾斜地崩壊対策	2021/6/11		埋蔵文化財なし
2021063		朝来市和田山町	但馬県民局養父土木事務所	(急) 栄町急傾斜地崩壊対策	2021/6/11		埋蔵文化財なし
2021065	下ノ山4～6号墳、四つ辻1～6号墳群ほか	加東市下滝野	県土整備部まちづくり局公園緑地	播磨中央公園リニューアル事業	2021/5/24		埋蔵文化財あり
2021068	三月野 1～11号墳	養父市大塚	但馬県民局朝来農林振興事務所	緊急機能強化・老朽化対策事業	2021/5/26		埋蔵文化財なし
2021069		上郡町船坂	西播磨県民局光都農林振興事務所	県単独緊急防災事業	2021/6/11		埋蔵文化財あり
2021070		宍粟市千種町	西播磨県民局光都農林振興事務所	県単独緊急防災事業	2021/6/11		埋蔵文化財なし
2021071		宍粟市山崎町	西播磨県民局光都農林振興事務所	予防治山事業	2021/6/11		埋蔵文化財なし
2021076	奥山刻印群	芦屋市奥山	国土交通省近畿地方整備局 六甲砂防事務所	芦屋山手地区斜面対策工事	2021/6/24		埋蔵文化財なし
2021077		姫路市広畑区	中播磨県民センター姫路土木事務	広畑青山線(ポンプ場設置工事)	2021/6/23	～ 2021/6/25	埋蔵文化財なし
2021078		神戸市東灘区	国土交通省近畿地方整備局 兵庫国道事務所	国道43号東灘崎崎電線共同溝	2021/6/18	～ 2021/7/23	埋蔵文化財なし
2021079		丹波市青垣町	丹波県民局丹波土木事務所	国道429号(榎峠)道路改良事業	2021/7/6		埋蔵文化財なし
2021080		丹波市市島町	丹波県民局丹波土木事務所	国道175号道路改良事業	2021/7/6		埋蔵文化財なし
2021081		丹波篠山市八上内	丹波県民局丹波土木事務所	(砂) 仙願寺川通常砂防事業	2021/7/6		埋蔵文化財あり
2021086		新温泉町浜坂	兵庫県警	美方警察署浜坂駅前交番庁舎新築工事	2021/7/12		埋蔵文化財なし
2021087		新温泉町浜坂	但馬県民局新温泉土木事務所	(都) 浜坂駅港湾線街路事業	2021/7/20		埋蔵文化財なし
2021088		豊岡市上佐野	国土交通省近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所	一般国道483号北近畿豊岡自動車道	2021/7/26		埋蔵文化財なし
2021095		養父市関宮	ひょうご農林機構県北事務所	里山防災林整備	2021/8/10		埋蔵文化財なし
2021096		養父市三谷	ひょうご農林機構県北事務所	里山防災林整備	2021/8/10		埋蔵文化財なし
2021097		養父市熊座	ひょうご農林機構県北事務所	野生動物共生林整備	2021/8/10		埋蔵文化財なし

2-3 分布調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間			調査の概要
2021098		丹波市柏原町	ひょうご農林機構県北事務所	里山防災林整備	2021/8/10			埋蔵文化財なし
2021099		丹波市春日町	ひょうご農林機構県北事務所	緊急防災林整備（溪流対策）	2021/8/10			埋蔵文化財なし
2021100		豊岡市日高町	ひょうご農林機構県北事務所	里山防災林整備	2021/8/10			埋蔵文化財なし
2021101		豊岡市日高町	ひょうご農林機構県北事務所	里山防災林整備	2021/8/10			埋蔵文化財なし
2021102		豊岡市城崎町	ひょうご農林機構県北事務所	里山防災林整備	2021/8/10			埋蔵文化財なし
2021103		多可郡多可町	北播磨県民局加東土木事務所	（砂）三ツ森谷川通常砂防事業	2021/8/20			埋蔵文化財なし
2021105	湯山城跡	神戸市北区	ひょうご農林機構県南事務所	都市山防災林整備	2021/8/23			埋蔵文化財あり
2021107		多可町加美区	北播磨県民局加東土木事務所	（砂）奥荒田下谷川砂防堰堤工事	2021/8/20			埋蔵文化財なし
2021109		丹波市柏原町	丹波県民局丹波農林振興事務所	県単独緊急防災事業	2021/8/30			埋蔵文化財なし
2021110		丹波篠山市大沢	丹波県民局丹波農林振興事務所	県単独緊急防災事業	2021/8/30			埋蔵文化財なし
2021111	生野鉱山（古城山・大盛山地区）	朝来市生野町	但馬県民局養父土木事務所	（砂）寺の上川	2021/7/6			埋蔵文化財あり
2021112		丹波市山南町	丹波県民局丹波土木事務所	（主）篠山山南線道路改築事業	2021/9/7			埋蔵文化財なし
2021113		香美町村岡区	但馬県民局豊岡農林水産振興事務所	県単独緊急防災事業	2021/9/16			埋蔵文化財なし
2021115		豊岡市出石町	但馬県民局豊岡農林水産振興事務所	緊急予防治山事業	2021/9/16			埋蔵文化財なし
2021120	伽耶院西遺跡	三木市志染町	企業庁	村上池土砂撤去工事	2021/9/29			埋蔵文化財あり
2021122		丹波市春日町	丹波県民局丹波土木事務所	（一）由良川水系黒井川改修事業	2021/10/12			埋蔵文化財なし
2021123		神戸市東灘区	兵庫県警	東灘警察署青木駅前交番庁舎新築工事	2021/8/24			埋蔵文化財なし
2021124		高砂市阿弥陀町	ひょうご農林機構県南事務所	里山防災林整備	2021/10/13			埋蔵文化財あり （※掘削箇所には埋蔵文化財なし）
2021125	楊柳寺遺跡群	多可町八千代区	ひょうご農林機構県南事務所	里山防災林整備	2021/10/13			埋蔵文化財なし
2021130	桜丘1～10号墳	西脇市黒田庄町	北播磨県民局加東農林振興事務所	地域防災対策総合治山事業	2021/10/27			埋蔵文化財あり
2021131		赤穂市有年牟礼	国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所	一般国道2号相生有年道路改築事業	2021/10/26			埋蔵文化財なし
2021141		三木市加佐、他	西日本高速道路(株)第二神明道路事務所	（仮称）三木インターチェンジ	2021/12/10			埋蔵文化財なし
2021145	三口西池第1散布地他	加西市三口町	北播磨県民局加東土木事務所河川砂防課	善坊川砂防	2022/1/13			埋蔵文化財なし
2021148		丹波篠山市県守	丹波県民局丹波農林振興事務所	県単独緊急防災事業	2022/1/12			埋蔵文化財なし
2021152		福崎町山崎	中播磨県民センター姫路土木事務所福崎事業所	山崎川砂防堰堤工事	2022/3/10			埋蔵文化財なし
2021155		加東市下滝野	北播磨県民局加東土木事務所	播磨中央公園リニューアル事業	2022/2/22			埋蔵文化財あり
2021158		加東市下滝野	北播磨県民局加東土木事務所	播磨中央公園リニューアル事業	2022/3/8			埋蔵文化財なし

3-1 確認調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間			調査の概要
2021011		新温泉町諸寄	但馬県民局新温泉土木事務所	地域連携推進（道路改築）事業（（国）178号浜坂道路Ⅱ期）	2021/4/12	～	2021/4/14	埋蔵文化財なし
2021012	中村遺跡	養父市大屋町	但馬県民局養父土木事務所	（主）養父穴栗線門野バイパス道路改良事業	2021/4/21	～	2021/4/23	埋蔵文化財あり
2021014	的場天目一神社周辺遺跡	多可町加美区	北播磨県民局加東土木事務所	（砂）丁田谷川砂防堰堤工事	2021/5/6			埋蔵文化財なし
2021016		三木市吉川町	農政環境部鳥獣対策課	県立総合射撃場（仮称）整備	2021/4/12	～	2021/4/14	埋蔵文化財なし

3-2 確認調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間		調査の概要
2021036	大門・畑瀬散布地	西脇市黒田庄町	北播磨県民局加東土木事務所多可事業所	(砂) 不動ヶ谷川 砂防堰堤工事	2021/4/27		埋蔵文化財なし
2021037	曙町遺跡	神戸市西区曙町	国立障害者リハビリテーションセンター	神戸視覚障害センター施設改修工事	2022/3/13		埋蔵文化財なし
2021039	豊岡城館遺跡	豊岡市京町	豊岡高等学校	県立豊岡高等学校受変電設備外改修工事	2021/4/28		埋蔵文化財なし
2021047	桑の木遺跡	姫路市峰南町	陸上自衛隊姫路駐屯地	姫路隊庁舎新設事業	2021/4/22		埋蔵文化財なし
2021048	住吉川西岸遺跡	丹波篠山市味間南	丹波県民局丹波土木事務所	(主) 西脇篠山線 味間工区道路改築事業	2021/5/13	～ 2021/5/14	埋蔵文化財あり
2021049	山国・大丹波遺跡	加東市山国	北播磨県民局加東土木事務所	神戸加東線道路改良工事	2021/5/18		埋蔵文化財あり
2021050	沖代遺跡	太子町沖代	西播磨県民局龍野土木事務所	網干停車場新舞子線	2021/5/21		埋蔵文化財なし
2021052	山ノ鼻遺跡	姫路市林田町	国土交通省近畿地方整備局 姫路河川国道事務所	姫路北バイパス建設事業	2021/4/26		埋蔵文化財なし
2021053	百坪遺跡	姫路市林田町	国土交通省近畿地方整備局 姫路河川国道事務所	姫路北バイパス建設事業	2021/4/27		埋蔵文化財なし
2021058	マンパ遺跡	養父市万久里	国土交通省近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所	国道9号万久里地区他簡易パーキング整備工事	2021/5/24		埋蔵文化財なし
2021060	豊岡城館遺跡	豊岡市京町	大阪矯正管区	令和3年度神戸刑務所豊岡拘置支所外壁等修繕工事	2021/6/7		埋蔵文化財なし
2021064	耳谷草山古墳群	豊岡市日高町	国土交通省近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所	北近畿豊岡自動車道 日高豊岡南道路 山本地区法面対策箇所(仮称)	2021/6/9	～ 2021/6/10	埋蔵文化財あり
2021072	コウロギ16～20号墳	豊岡市中郷	但馬県民局豊岡農林水産振興事務所	復旧治山事業	2021/6/14		埋蔵文化財なし
2021074	有年牟礼・井田遺跡	赤穂市有年牟礼	国土交通省近畿地方整備局 姫路河川国道事務所	一般国道2号相生有年道路改築事業	2021/6/21		埋蔵文化財なし
2021082	桑ノ木遺跡	姫路市峰南町	陸上自衛隊姫路駐屯地	桑ノ木A宿舎特別改修(仮)	2021/7/1		埋蔵文化財なし
2021084	生野鉱山(古城山・大盛山地区)	朝来市生野町	但馬県民局養父土木事務所	(砂) 寺の上川	2021/7/6		埋蔵文化財あり
2021093	No. 1 2 7 地点	神戸市西区伊川谷町	ネクスコ西日本(株) 第二神明道路事務所	一般国道2号(第二神明道路)建設事業	2021/8/27	～ 2021/9/21	埋蔵文化財なし
2021094	No. 1 5 9 地点	神戸市西区平野町	ネクスコ西日本(株) 第二神明道路事務所	一般国道2号(第二神明道路)建設事業	2021/9/7	～ 2021/9/22	埋蔵文化財なし
2021104		姫路市広畑区	中播磨県民センター 姫路土木事務所	(一) 広畑青山線道路改良事業	2021/8/23	～ 2021/8/24	埋蔵文化財あり
2021106	西安田・圓満寺遺跡	多可町中区	ひょうご農林機構西播磨事務所	緊急防災林整備(浜流対策)	2021/9/2	～ 2021/10/22	埋蔵文化財なし
2021114	周世・入相遺跡	赤穂市周世	西播磨県民局光都土木事務所	急傾斜地崩壊対策事業(急) 御蔵地区	2022/2/1		埋蔵文化財なし
2021116	寺所東遺跡	多可町中区	北播磨県民局 加東農林振興事務所	奥地保安林保全緊急対策事業	2021/11/10		埋蔵文化財なし
2021117	住吉川右岸遺跡	丹波篠山市味間南	丹波県民局丹波土木事務所	(主) 西脇篠山線 味間工区道路改築事業	2021/11/1		埋蔵文化財なし
2021118	西求女塚古墳	神戸市灘区都通	国土交通省近畿地方整備局 兵庫国道事務所	国道43号灘岩屋電線共同溝工事	2021/9/15	～ 2021/9/16	埋蔵文化財なし
2021119	史跡 明石城跡	明石市明石公園	東播磨県民局加古川土木事務所	明石公園 石垣等照明改修工事	2021/10/5		埋蔵文化財あり
2021127	海軍操練所跡	神戸市中央区新港町	神戸財務事務所	地下埋設物調査業務(神戸市中央区新港町)	2021/10/18	～ 2021/10/19	埋蔵文化財なし
2021128	木津遺跡	猪名川町木津	阪神北県民局宝塚土木事務所	(主) 川西篠山線歩道整備工事(その2)	2021/11/1		埋蔵文化財なし
2021129		香美町香住区	但馬県民局新温泉土木事務所	砂防えん堤工事 (砂) 鉾北谷川	2021/10/19		埋蔵文化財なし
2021132	本田遺跡	養父市大屋町	但馬県民局養父土木事務所	(主) 養父安栗線門野バイパス道路改良事業	2021/11/8	～ 2021/11/9	埋蔵文化財なし
2021133		新温泉町古市	但馬県民局新温泉土木事務所	県単がけ対策事業(急) 古市	2021/11/10	～ 2021/11/11	埋蔵文化財あり
2021134		宍粟市山崎町	兵庫県警	宍粟警察署仮設庁舎建設工事	2021/10/25		埋蔵文化財なし
2021135	袋尻遺跡	たつの市揖保川町	西播磨県民局龍野土木事務所	(一) 中島揖保川線道路保全防災安全交付金事業	2021/11/24	～ 2021/11/25	埋蔵文化財なし
2021136	六分一遺跡	稲美町六分一	東播磨県民局加古川土木事務所	(主) 宗佐土山線天満バイパス	2021/11/11		埋蔵文化財なし
2021137	曙町遺跡	神戸市西区曙町	健康福祉部障害福祉局ユニバーサル推進課	ひょうご障害者総合トレーニングセンター(仮称) 整備事業	2021/11/24	～ 2021/11/30	埋蔵文化財なし
2021138	明石公園	明石公園照明改修	東播磨県民局加古川土木事務所	明石公園 石垣等照明改修工事	2021/11/29	～ 2021/11/30	埋蔵文化財なし
2021139	沖代遺跡	太子町沖代	西播磨県民局龍野土木事務所	(一) 網干停車場新舞子線	2021/12/8	～ 2021/12/10	埋蔵文化財あり
2021142	西求女塚古墳	神戸市灘区都通	国土交通省近畿地方整備局 兵庫国道事務所	国道43号灘岩屋電線共同溝工事	2021/12/7	～ 2021/12/8	埋蔵文化財なし
2021143		丹波篠山市波賀野	丹波県民局丹波土木事務所	河川事業	2022/1/12		埋蔵文化財なし
2021144		尼崎市田能	兵庫県競馬組合事務局事業部業務課	園田競馬場装鞍所改修工事	2022/1/6	～ 2022/1/7	埋蔵文化財あり
2021149	宇山遺跡	洲本市宇山	国土交通省近畿地方整備局 兵庫国道事務所	一般国道28号洲本バイパス事業	2022/1/25	～ 2022/1/26	埋蔵文化財あり

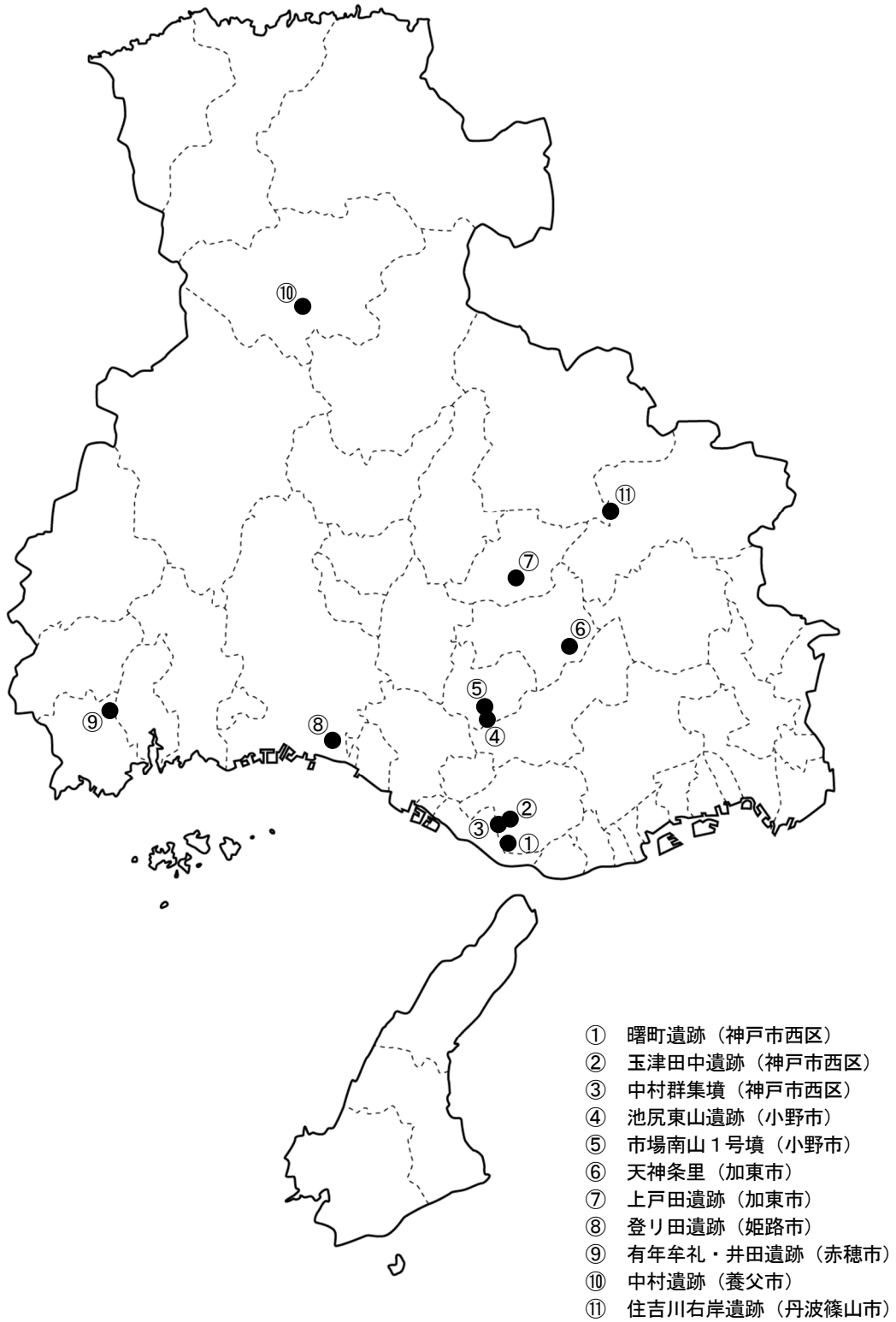
3-3 確認調査

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間		調査の概要
2021150		大栗市一宮町	西播磨県民局能野土木事務所大栗事業所	(主)加美穴栗線(能倉BPⅡ)道路改良工事	2022/2/28	～ 2022/3/7	埋蔵文化財なし
2021151	上戸田遺跡	西脇市上戸田	国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所	一般国道175号西脇北バイパス事業	2022/2/15		埋蔵文化財あり
2021153	高丘古窯跡群	明石市大久保町	ネクスコ西日本(株)第二神明道路道路事務所	一般国道2号(第二神明道路)付加車線事業	2022/2/17		埋蔵文化財なし
2021154	下ノ山4～6号墳	加東市下滝野	北播磨県民局加東土木事務所	播磨中央公園リニューアル事業	2022/2/22		埋蔵文化財なし
2021156	天神山3号窯址	加東市光明寺	北播磨県民局加東土木事務所	播磨中央公園リニューアル事業	2022/3/4		埋蔵文化財なし

4 工事立会

遺跡調査番号	遺跡名	所在地	事業者名	事業名	調査期間		調査の概要
2021013	本庄町遺跡	神戸市東灘区	兵庫県住宅供給公社	県営深江北鉄筋住宅解体除却工事	2021/4/8		埋蔵文化財なし
2021017	気比川散布地	豊岡市気比	但馬県民局豊岡土木事務所	河川事業(一)気比川	2021/4/7		埋蔵文化財なし
2021020	柏原旧城下町	丹波市柏原町	大阪高等裁判所	神戸地家裁柏原支部新営等建築工事	2021/4/14	～ 2021/7/8	埋蔵文化財なし
2021046	兵庫津遺跡	神戸市兵庫区中之島	企画県民部地域創生局地域資源課	県庁発祥の地整備事業	2021/4/27		記録保存
2021066	兵庫津遺跡	神戸市兵庫区中之島	企画県民部地域創生局地域資源課	県庁発祥の地整備事業	2021/5/21		記録保存
2021067	豊岡城館遺跡	豊岡市京町	県立豊岡高等学校	県立豊岡高等学校受変電設備外改修工事	2021/5/20		記録保存
2021108	福井池の下遺跡	相生市若狹野町	国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所	一般国道2号相生有年道路改築事業	2021/9/1	～ 2021/9/6	埋蔵文化財なし
2021121	史跡 明石城跡	明石市明石公園	東播磨県民局加古川土木事務所	明石公園 石垣等照明改修工事	2021/10/5		埋蔵文化財なし
2021140	鵜遺跡	揖保郡太子町	西播磨県民局能野土木事務所	(国)179号バイパス(太子道路)道路改築事業	2021/11/4	～ 2022/1/24	埋蔵文化財なし
2021146	柏原旧城下町	丹波市柏原町	大阪高等裁判所	神戸地家裁柏原支部新営等建築工事	2021/8/19	～ 2022/2/14	記録保存
2021147	構遺跡	たつの市揖西町	ひょうご農林機構県南事務所	里山防災林整備	2022/1/13		埋蔵文化財なし

第2章 発掘調査事業の概要



1 曙町遺跡

所在地 神戸市西区曙町
 事業者名 兵庫県健康福祉部
 事業名 ひょうご障害者総合
 トレーニングセンター（仮称）事業
 担当者 垣内拓郎・松崎光伸
 種別 本発掘調査
 期間 令和3年4月6日～7月21日
 面積 904 m²



遺跡の位置（「東二見」・「明石」）

1 調査に至る経過

兵庫県健康福祉部は神戸市西区曙町において、ひょうご障害者総合トレーニングセンター（仮称）事業を計画している。事業地周辺は曙町遺跡として周知されている。また、当該事業地では県教育委員会が平成8・9年度に確認調査（遺跡調査番号:960308・970204）を実施しており、埋蔵文化財の存在が明らかになったことから本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

曙町遺跡は、明石川右岸の沖積平野部で印南野台地東縁部の裾に位置する。調査地周辺の平野部や段丘裾には、台地東縁部に刻まれた大小の開析谷や明石川を水源とする複数の流路が溜め池を形成しつつ流下する。調査地西側台地上には古墳時代中期の首長墓とされる王塚古墳（遺跡番号 019148）が近在するほか、調査地周辺には条里地割りの展開が1940～1960年代の空中写真から確認できる。

【調査区と遺構の検出について】

事業地において、調査地点は西側のA-1・2区と東側のB区の3箇所にあたがる。調査区の規模は、北側のA-1区が東西約33m、南北約7～8m、その15m南側のA-2区は北辺が約25m、東辺約29m、西辺約11mとなっており、A-1区の東側延長上のB区は幅2～3mのL字形の調査区で、東西42m、東端が南側に直角に屈曲して南北7mとなっている。

A区では上層・下層遺構検出面の2面に分けて調査し、B区は1面のみの調査を実施した。

【A-1区の調査成果】

上層遺構検出面では、古墳時代後期前葉の平面方形の竪穴建物跡2棟のほか、中世前半頃の柱穴、土坑、溝などを検出した。また、下層遺構検出面では、河川または洪水・氾濫由来の厚い堆積物層と、その下層に複数の堆積間隙がある湿地状地形の堆積物層を確認した。これらの各層には残りの良い古墳時代前期の土師器が多数含まれており、特に湿地状地形堆積物部分で出土した土器には、穿孔されたものも認められることから意図的に残置された可能性がある。以上のことから、古墳時代前期の厚い洪水・氾濫堆積層は微高地を形成し、古墳時代後期前葉の竪穴建物跡などの遺構がその上部に形成されたことが明らかとなった。なお、洪水・氾濫堆積物層には竪穴建物跡に切られる砂脈が見つかっており、古墳時代前期～後期前葉までに規模の大きな地震の発生が推測される。

【A－2区の調査成果】

上層遺構検出面では、古墳時代後期～古代とみられる溝や土坑、複数の柱穴などを検出し、調査区南東隅で旧河道堆積物を確認した。下層遺構検出面では、古墳時代後期前葉の須恵器・土師器を含む旧河道を調査区のほぼ全域にわたって検出した。以上のことから、古墳時代後期前葉に河川が埋没した後に遺構が形成されたことが明らかとなった。

【B区の調査成果】

狭小なB区は、その西側のほとんどが廃置されたコンクリート擁壁や埋設管によって大きく攪乱されていたため調査不可能となっており、東端部のみの調査となっている。遺構検出面は一面のみだが、中世後期の土器を含む溝が検出された。溝は南北を指向しており条里地割に関連するとみられる。

3 まとめ

A－1区で認められた古墳時代前期の土器が意図的に残置された湿地状地形は厚い洪水・氾濫堆積物に覆われて微高地が形成され、古墳時代後期前葉の竪穴建物跡2棟などの遺構が形成された。A－2区では、古墳時代後期前葉の土器を含む旧河道の埋没後に遺構が形成されたことが明らかとなった。このことから、古墳時代前期より河道の蛇行等により流向が西側や南側へ移動するとともに、微高地の形成が南側へ遷移していくなかで安定した土地に集落が営まれたと考えられ、調査区周辺には同様な河道の移動と集落跡を有する細かな微高地が複数存在し、複雑に広がっている可能性がある。また、B区で見つかった条里地割関連の中世後半の溝からは、調査地周辺のこういった土地の開発の様相を窺うことができる。



調査区遠景（西から）



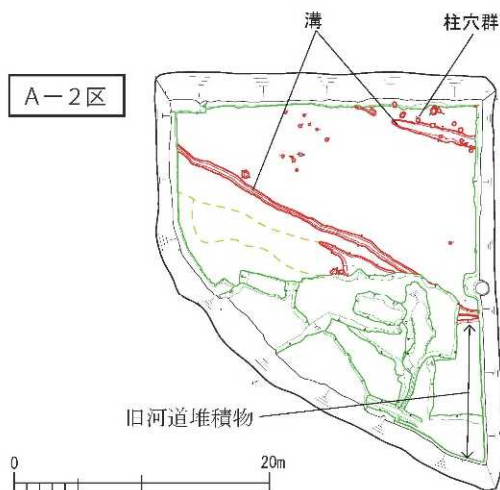
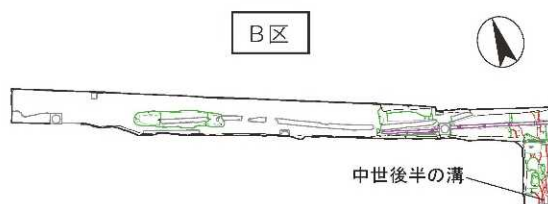
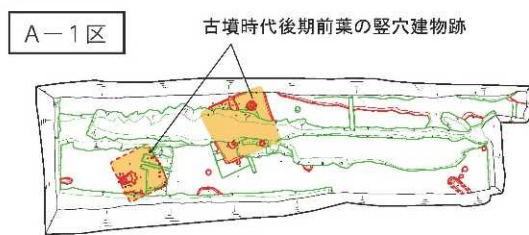
A－1区上層検出面全景（東から）



A－2区上層検出面全景（北から）

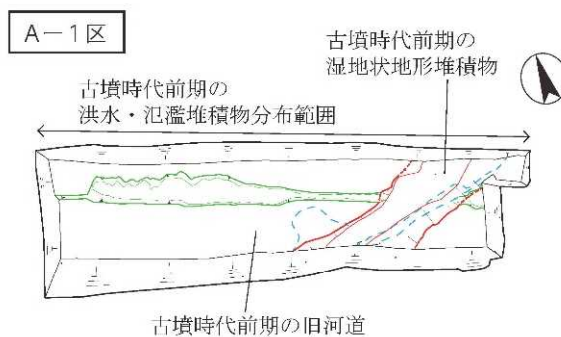


B区東端部遺構検出面全景（北西から）

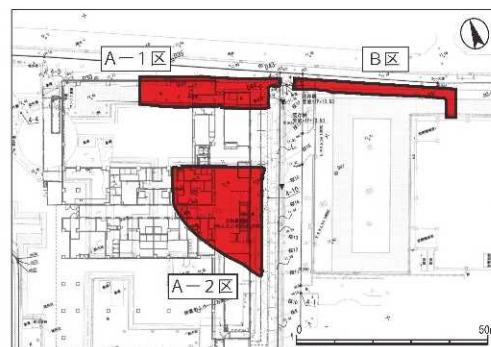
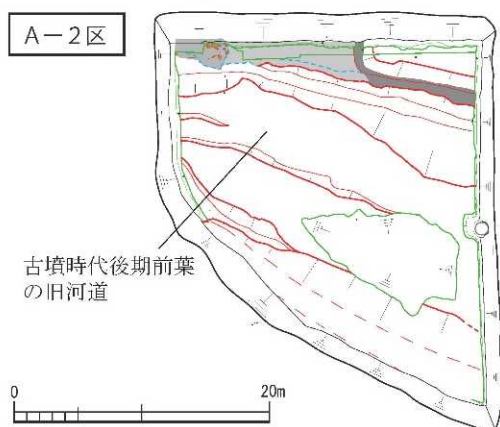


古墳時代後期前葉の竪穴建物跡（南から）

上層検出面平面図（A-1区・A-2区・B区）



湿地状地形堆積物出土の古墳時代前期の土器（北東から）



調査区位置図

下層検出面平面図（A-1区・A-2区）

2 玉津田中遺跡

所在地 神戸市西区平野町

事業者名 西日本高速道路(株)関西支社

第二神明道路事務所

事業名 一般国道2号(第二神明道路)建設事業

担当者 山田清朝・山上雅弘・鈴木郁哉

種別 本発掘調査

期間 令和3年5月10日～10月8日

面積 3,489 m²



遺跡の位置(「東二見」)

1 調査に至る経過

西日本高速道路(株)関西支社第二神明道路事務所による一般国道2号(第二神明道路)の建設に伴い、県教育委員会が平成30年度に確認調査を行った。その結果、玉津田中遺跡として周知されているNo.164地点・No.167地点・No.171地点・No.175地点の4地点で埋蔵文化財が包蔵されていることが明らかとなった。また、令和元年度の本発掘調査では、No.164地点・No.171地点・No.175地点の調査を実施した。本年度は、No.164地点(遺跡調査番号:2021003)・No.175地点(遺跡調査番号:2021015)の本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

【No.175 地点】

2面の遺構面を検出している。

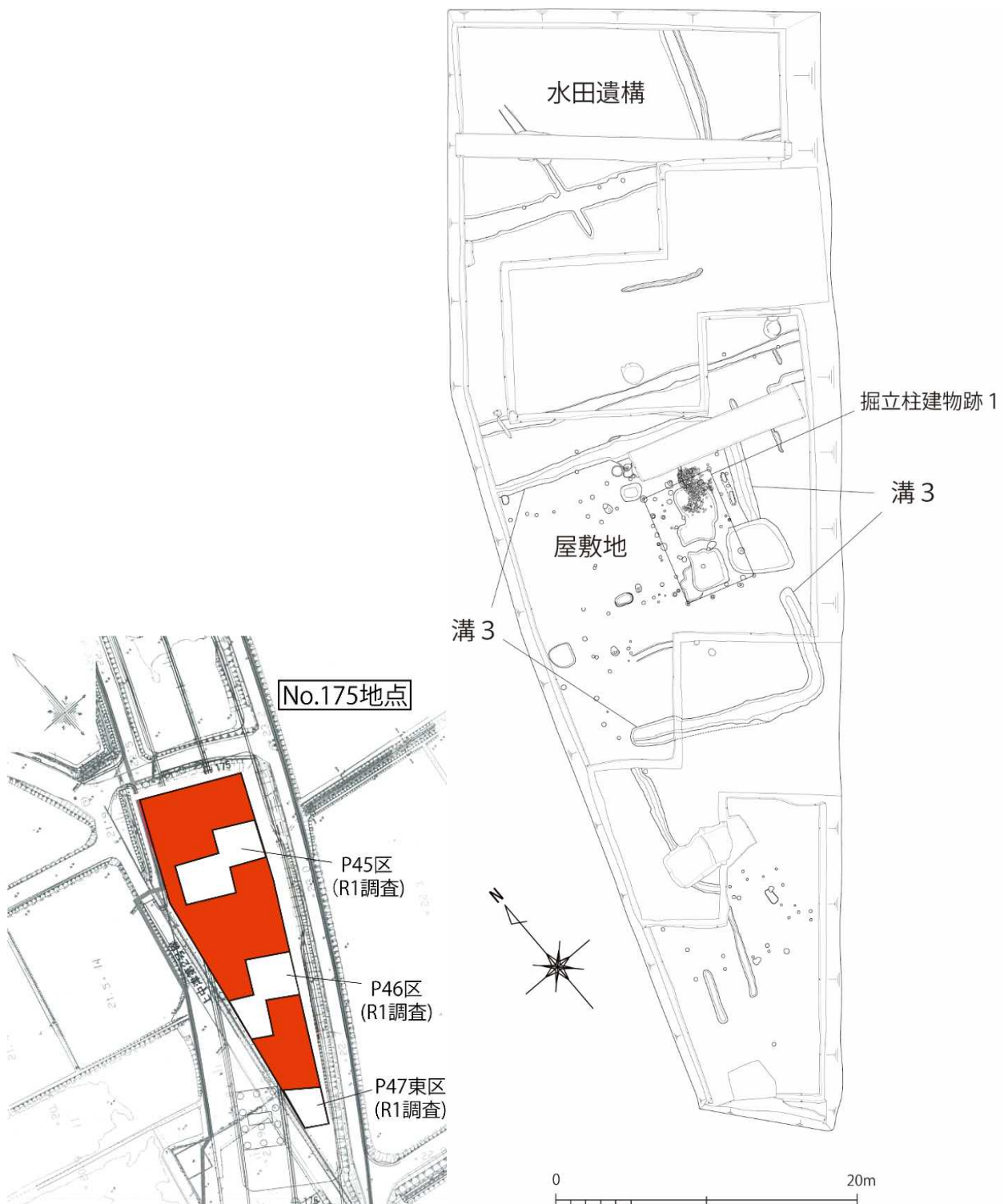
第1面 溝3で区画された屋敷地と水田遺構が確認された。溝3はコの字状に検出されており、屋敷地の北辺、東辺、南辺に相当する。溝3は幅が1.0～1.5m、深さが10～30cmである。

溝3に区画された屋敷地は一辺約20mの規模で、南と東に開口部を持つ。屋敷地内では掘立柱建物跡1や柱穴群、土坑などが検出されている。掘立柱建物1は、屋敷地内では柱穴の密集する東側に位置している。建物の構造は4間×3間の総柱建物と復元でき、束柱を含めて計15基の柱穴から構成される。土坑は円形土坑4基、方形土坑3基が検出されている。

遺物は溝3から土師器鍋や漆碗などが出土しているほか、土坑4からも須恵器碗や土師器皿などが出土している。屋敷地の時期はこれらの出土遺物から中世(14世紀代)と考えられる。

水田遺構は屋敷地より北側で検出されている。南北方向、東西方向それぞれ2本の畦畔を検出した。畦畔は幅が0.5～1.5m、高さが4～15cmである。屋敷地及び畦畔の主軸は周辺の条里地割の向きと一致している。

第2面 溝が1条検出されている。溝は調査区のほぼ中央で検出され、北西から南東に延びている。遺物は包含層や溝の中から弥生時代後期～古墳時代初頭の土器が出土したほか、包含層からは板や杭といった木製品が出土している。包含層の遺物は特に調査区の北側で集中して出土している。



No. 175 地点調査区配置図及び第 1 面平面図



調査区遠景（南上空から）



第1面掘立柱建物跡1全景（西から）



第1面土坑4全景（東から）



第2面土器出土状況

【No. 164 地点】

1面の遺構面を検出している。

1区 検出した遺構は掘立柱建物跡、炉跡、土坑などである。

掘立柱建物跡は10棟が確認されている。以下に代表的なものを挙げる。

掘立柱建物跡3は4間×3間の規模を持つ掘立柱建物である。建物を構成する柱穴内より須恵器や土師器が出土している。時期は8世紀から9世紀と考えられる。

掘立柱建物跡6は欠落する柱穴があるものの、4間×3間の規模と思われる総柱建物である。建物を構成する柱穴内より須恵器や土師器が出土している。時期は12世紀代と考えられる。

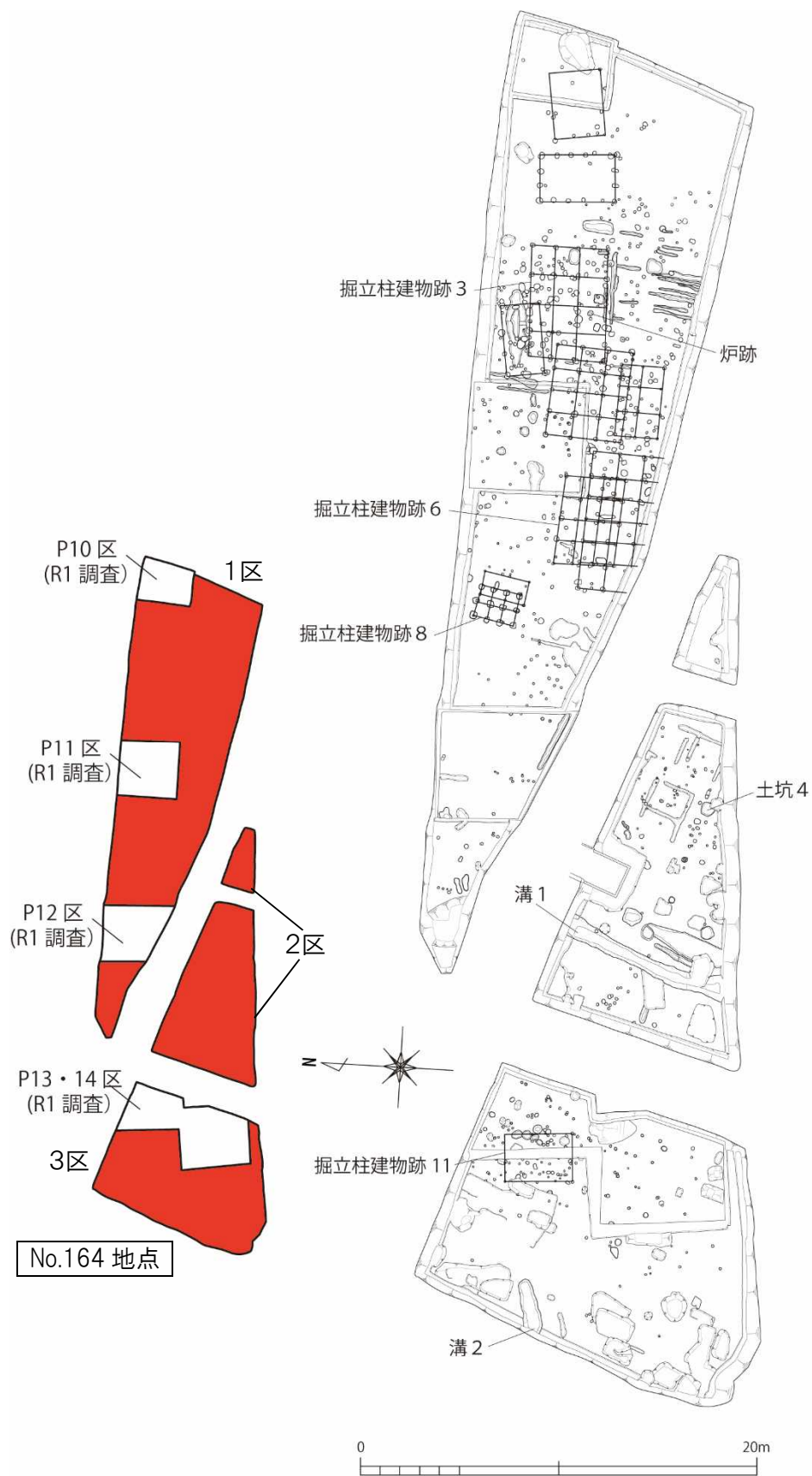
掘立柱建物跡8は3間×2間の規模をもつ総柱建物である。建物の時期は柱穴の大きさから8世紀代と考えられる。

炉跡は直径30cmほどの歪な円形を呈している。焼土層には砂鉄が含まれている。

土坑3は東西幅8.0m、南北幅2.0mで歪な楕円形を呈している。深さは20cmである。須恵器の杯が出土している。時期は8世紀頃と考えられる。

2区 検出された遺構は溝、土坑、柱穴等である。

溝1は幅1.5～2.5m、深さ30～70cmで、断面は逆台形を呈する。溝は北東－南西方向に調査区を横断する形で延びている。埋土中には拳大の礫が多く含まれていた。礫は人為的に埋められたと思われる。



No. 164 地点調査区配置図及び平面図



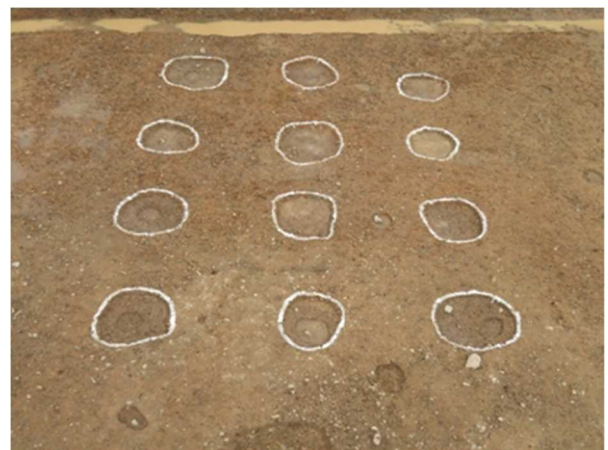
調査区遠景（南上空から）



1区掘立柱建物跡3全景（南から）



1区掘立柱建物跡6全景（東から）



1区掘立柱建物跡8全景（南から）



1区炉跡検出状況（南から）



2区土坑4遺物出土状況（北から）



2区溝1全景（北から）



3区掘立柱建物跡11全景（南から）

埋土中から須恵器の甕が出土している。

土坑4は一辺約1.3mの隅丸方形を呈する。断面は逆台形を呈し、深さは最大で20cmである。最上層からは土師質の羽釜や須恵器の甕などが出土している。これらの遺物は12世紀中頃のものである。

3区 検出された遺構は掘立柱建物跡2棟、土坑、粘土採掘坑、溝、柱穴などである。

掘立柱建物跡11は欠落する柱穴があるものの、梁行4間、桁行2間の規模と思われる掘立柱建物である。建物を構成する柱穴内より須恵器が出土している。時期は中世と考えられる。

溝2は調査区西側で検出した。溝の幅は1.6m、深さは40cmを測る。溝の中から弥生時代終末期から古墳時代初頭の土器が出土している。

3 まとめ

No. 175 地点では、第1面で中世、第2面で弥生時代の遺構や遺物が確認された。第1面では溝で区画された屋敷地が検出され、当該期にこの場所が居住域として利用されていたこと、またその北側に水田が広がることが明らかとなった。第2面ではその直上や溝から弥生時代の遺物が見つかり、弥生時代の人々が周辺で活動していたことが考えられる。

No. 164 地点では、弥生時代から鎌倉時代にかけての遺構と遺物が明らかとなった。とりわけ1区では奈良時代から鎌倉時代の掘立柱建物が10棟検出され、3区でも同時期と考えられる掘立柱建物が2棟検出されている。当地点で複数の時期にわたって居住域が形成されていることが明らかとなった。また、弥生時代終末期から古墳時代初頭の溝が検出され、当該期から人々がこの地点で活動していたことが明らかとなった。玉津田中遺跡における土地利用の変遷を把握する上で重要な手がかりを得ることができた。

3 中村群集墳

所在地 神戸市西区平野町

事業者名 西日本高速道路(株)関西支社

第二神明道路事務所

事業名 一般国道2号(第二神明道路)建設事業

担当者 山田清朝・山上雅弘・稲本悠一・

鈴木郁哉

種別 本発掘調査

期間 令和3年10月4日～令和4年1月26日

面積 3,546 m²



遺跡の位置(「東二見」)

1 調査に至る経過

西日本高速道路(株)関西支社第二神明道路事務所による一般国道2号(第二神明道路)の建設に伴い、県教育委員会が平成30年度に確認調査を行った。その結果、埋蔵文化財が包蔵されていることが明らかとなった。また、令和2年度(遺跡調査番号:2020003)の本発掘調査では弥生時代後期の墳墓や古墳時代前期・後期の古墳が検出され、弥生時代と古墳時代に墓域が形成されていたことが明らかとなっている。本年度は令和2年度調査地点と谷を挟んだ北側の調査を実施した。

2 調査の概要

検出された遺構は埋葬施設1基(SX1)、溝7条、土坑6基、集石遺構である。

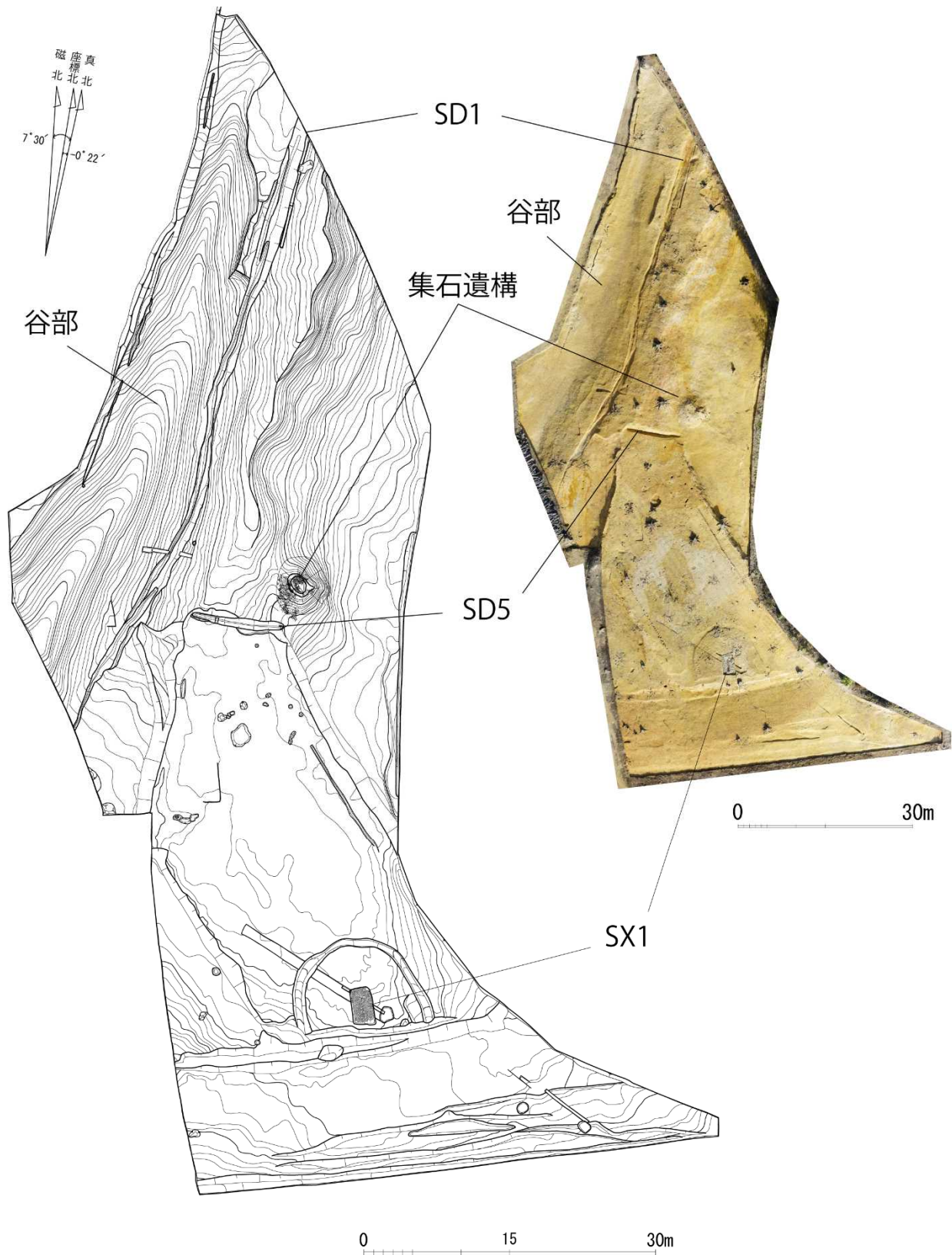
SX1 南端で検出した埋葬施設である。墳丘は上部と南側の一部が削平され、残存状況はよくない。SX1の周囲には、周溝SD7がめぐる。周溝の状況から、墳丘の形はやや不整形だが、直径約12mの円形の可能性が想定できる。盛土は確認できなかった。

SX1は墳丘のおよそ中心に位置する。墓坑は、平面が長方形を呈し、長辺約3.8m、短辺約2.2m、深さ約0.7mの規模を測る。南辺が北辺よりやや長い。

埋葬施設は、大小様々な礫で木棺を埋めた礫槨である。検出時は、木棺上部を被覆する直径15cm程度の円礫が墓坑のほぼ全面に広がっており、木棺の置かれた場所に礫が落ち込んでいる状態であった。礫槨の構造は、墓坑底全面に礫床を設け、その上に木棺を置き、木棺の周囲に礫を入れるというものである。埋土や礫槨内の礫の状況から、木棺は割竹形木棺とみられる。木棺は長さ約2.3m、幅約0.5mである。木棺はSX1の中軸よりわずかに西側に寄った位置に置かれていた。また、北端から幅約40cm、東端から幅約60cm、平面形がL字を呈するテラスが設けられていた。このテラスは墓坑底から約30cmの高さまで土を盛って構築されており、テラスの東側にのみ小礫で礫敷が敷設されていた。

遺物は北側小口付近の礫床直上から、棺内に副葬された鉄製ヤリガンナが、礫の間から土師器片が数点出土した。

墓坑底、礫床、被覆礫の検出時のレベルは、いずれも北側が南側よりもわずかに高い。このことと、鉄製ヤリガンナの出土位置から、被葬者の頭位は北側にあったと推定される。



調査区平面図及びオルソ写真



調査区遠景（南上空から）



SX1 及び SD7 全景（上が北）



SX1 検出時全景（南から）



SX1 礫底部検出作業



SX1 礫底部ヤリガンナ出土状況



SX1 断面（南から）

SX1は、年代を決定する根拠に欠けるが、同様の構造をもつ埋葬施設が弥生時代終末期～古墳時代初頭のものであることから、同時期のものと推定できる。

SD1 調査区を南北に延びる溝である。溝の西側は谷部である。南北ともに調査区外に続くとみられ、検出長は約55mである。溝の北側では幅2m、深さ60cm前後だが、溝の南端では幅、深さともに20cm前後と細くなる。溝はこの谷に沿って延びており、地形を意識して溝が掘られていると考えられる。遺物は弥生土器やサヌカイト、古墳時代の須恵器や土師器、埴輪が出土している。

SD5 全長約10.0m、幅約0.9m、深さ0.4mの規模を測る溝である。当遺構の性格は確定しえないが、尾根に直交するように掘削されていることから、墓域を区画する溝であった可能性がある。

集石遺構 調査区北寄りの東斜面で検出した。南北6m×東西6m、高さ2m前後の小丘に礫を敷き詰めた遺構である。礫は円礫が多く直径5～15cm前後で、小丘の頂部および西斜面から南斜面の範囲に検出した。しかし小丘の北・東・南東は後世の削平を受け、小丘周辺の裾部には少量の礫も散布するので、旧状は礫が小丘全体に敷き詰められていた可能性が高い。遺物は礫に混じって古墳時代の須恵器甕片が出土している。

そのほか、埋もれていた谷部を検出した。谷部からは弥生時代から中近世の遺物が出土している。特に古墳時代後期（6世紀代）の土器が多く出土している。

3 まとめ

今回の調査では埋葬施設SX1の発見が特筆すべき成果といえる。兵庫県内では類例のない礫櫛で、貴重な発見となった。埋葬施設の時期は、弥生時代終末期～古墳時代初頭（約1,800年前）とみられる。明石平野を一望できる見晴らしのよい場所につくられていることから、SX1は付近を治めた有力者の墓地であった可能性が高い。

昨年度の調査で見つかった墓域は今回の調査区まで広がることが明らかとなった。また、谷部から古墳時代後期（6世紀）の土器が多く出土していることから、周辺に古墳が存在していたことが想定される。加えて、SD1や谷部からはサヌカイトの剥片が約30個出土している。墓域を区画していたと考えられるSD5を挟んで北側は弥生時代の集落が、南側には古墳群が広がっていたことが想定される。しかしながら、それらは後世の削平や斜面の崩落により、一部の遺構を除いて消失したとみられる。



調査区南側の様相（南上空から）



SX1と明石平野を望む（西上空から）

4 池尻東山遺跡

所在地 小野市池尻町
 事業者名 兵庫県北播磨県民局加東土木事務所
 事業名 県道加古川小野線（東播磨道北工区）
 担当者 稲本悠一・別府洋二
 種別 本発掘調査
 期間 令和3年7月15日～10月7日
 面積 850 m²



遺跡の位置（「三木」）

1 調査に至る経過

兵庫県北播磨県民局加東土木事務所による県道加古川小野線（東播磨道北工区）の建設に先立ち、県教育委員会が令和2年度に確認調査（遺跡調査番号：2020050）を行った。その結果、事業用地内の埋蔵文化財未周知の地点で埋蔵文化財が包蔵されていることが新たに明らかになった。確認調査の成果を受け、池尻東山遺跡の本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

調査対象地は小野市池尻町に位置し、地形的には加古川東岸、小野台地の西端に発達する丘陵の南側斜面に立地する。調査の結果、旧地形を大規模に切り盛りすることで造成された複数の平坦面と、平坦面上を中心に掘立柱建物跡2棟、竪穴建物跡3棟、溝8条、土坑22基、柱穴93基（建物跡を復元できた柱穴は内17基）、焼土等の遺構を検出した。平坦面は大きく上・中・下段の3段に分かれ、後背面のカットの状況からさらに小さい単位に区分できる。以下、主な成果について述べる。

【古墳時代後期後半から飛鳥時代前半の遺構・遺物】

上段 平坦面1・4・5の小単位に区分できる。盛土が流出しており、中段・下段と比べて遺構の残存状況はよくない。上段の遺構は東側の最も規模の大きい平坦面1に集中する。平坦面1では、掘立柱建物跡1棟（SB1）、溝、土坑、柱穴、焼土を検出した。SB1は北側の柱列3間分を検出したが、いずれの柱穴も浅く、残存状況はよくない。また、SB1の南側も盛り土とともに流出したとみられる。なお、上段より北は急峻な斜面となっており、斜面上において溝1条を検出した。

中段 平坦面2・6・7の小単位に区分できる。最も西側の平坦面2では掘立柱建物跡1棟（SB2）と溝、柱穴、焼土を検出した。SB2は東西3間、南北2間分の柱穴を検出しており、柱間は約2.0mである。西側の側柱が確認できないことから、建物は調査区外へ続くとみられる。復元できた建物跡は1棟だが、SB2を構成するもの以外の柱穴を確認できたことから、当平坦面では建物の建て替えが行われたと考えられる。なお、柱穴を断ち割った際、遺構検出面よりも下層に焼土がみられたため、当平坦面については、下層遺構の確認を行った。その結果、遺物はほとんど出土しなかったが、溝1条と焼土を検出した。これらのことから、SB1をはじめとする平坦面2の遺構は下層遺構面を整地した後のものであることが明らかになった。

また、最も東側の平坦面7では、溝、土坑、柱穴、焼土を検出した。建物の復元はできなかったが、当平坦面において検出した2条の溝SD80とSD94は、中から多量の土器が出土しており注目される。両溝はいずれも平面形L字状を呈しており、土層の観察と平面の切り合いの状況からSD94が埋まった後に、SD80が掘削されたとみられる。SD80は東西長約7.8m、東側は屈曲して南北4.0m、幅0.8～2.5m、深さは0.3～0.9mを測り、後背斜面も掘削するなど大規模なものである。その他の遺構として、焼土を伴う土坑を複数確認しており、炭化物を多量に含んだ土坑も検出した。

下段 平坦面3・8の小単位に区分できる。西側の平坦面3では、竪穴建物跡1棟(SH108)、溝、土坑、柱穴を検出した。SH108は南北5.4m、東西の検出長3.8m、深さ0.35mで、平面形は方形である。西側は調査区外に広がる。建物の南半には貼床、床面の周囲には壁溝を有し、建物南東部にはカマドに伴うとみられる炭化物和焼土、煙出しを確認した。また、調査区西壁付近の床面では被熱している箇所がみられた。他の地点で確認した焼土とは異なり、床面が硬化していることから、強い火を受けたものと考えられる。SH108は埋土の堆積状況からほぼ一括して埋められたとみられ、埋土の上面において柱穴や焼土を伴う土坑を検出している。このことから、建物の復元はできないものの、SH108を埋め立てた後に、掘立柱建物が建てられたものと判断できる。

平坦面8では、竪穴建物跡2棟(SH106・SH121)、竪穴建物に伴う溝、柱穴、焼土を検出した。SH121は北半分のみ残存しており、掘り方の規模は南北2.0m、東西5.1m、床面の規模は南北1.8m、東西4.8mである。地山斜面を掘削しており、最も深い北側は旧地表から0.45mの深さである。断面の観察から、地山を掘削した後、厚さ約10cmの貼床を設けていたとみられる。竪穴建物跡北辺の中央にはカマドに伴うとみられる焼土・炭化物の集中地点と、そこから斜め上方に向かって伸びる煙出しを検出した。また、SH121の後背にめぐる溝SD119は、SH121の煙出しと接続しており、後背斜面から流れてきた水を竪穴建物の周囲へ逃がす排水溝の機能を有した可能性が考えられる。

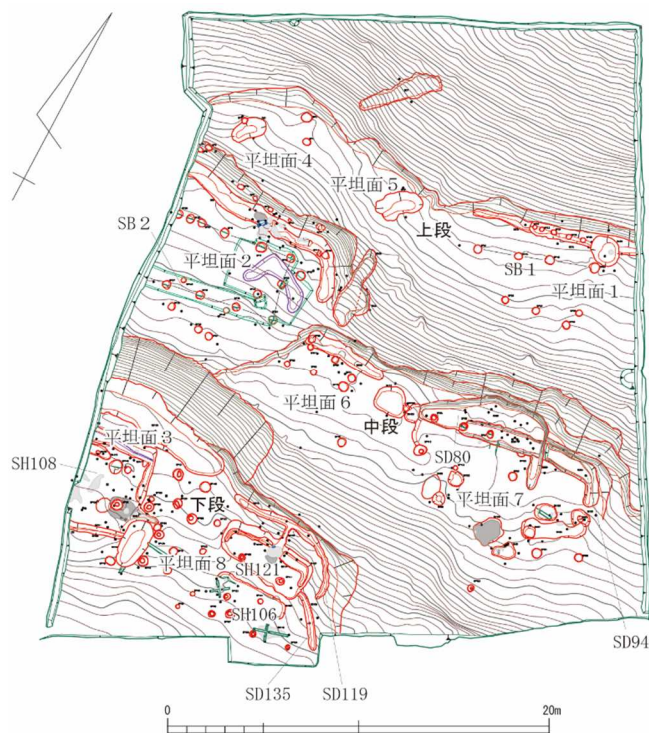
SH106は残存状況が悪いが、東西長4.0m、南北の残存長1.0mである。また、東側で検出した溝SD135は、SD119と同様のSH106に伴う排水溝と想定している。切り合いの状況から、SH106はSH121に先行するものと捉えられる。

遺物は人力掘削中ならびに遺構内から杯身・杯蓋・高杯・甕・壺等の須恵器、杯・高杯・甕・甗等の土師器、鉄器が出土した。

3 まとめ

今回の発掘調査では、池尻東山遺跡が古墳時代後期後半から飛鳥時代前半頃にかけての集落であったことが明らかになった。丘陵斜面上という特異な立地条件ではあるが、建物の建て替えや平坦面の整地、後背斜面の再掘削が確認できたことから、集落はある程度の期間、継続的に営まれたものと評価できる。なお、中段と下段の平坦面が西側調査区外へと続くことから、遺跡はさらに西側にも広がる。

ここで問題となるのが当遺跡の性格である。須恵器の供膳具に加え、甕や甗といった煮炊具が多く出土している点等、出土土器の様相は通常の集落遺跡と何ら変わらない印象も受けるが、丘陵斜面上に立地する特異性、複数の平坦面において焼土を検出した点等を踏まえると、何らかの手工業に関する工房跡であった可能性も想定できる。ただし、鍛冶等の手工業に関連する遺物は確認できておらず、工房跡と確定するには至らなかった。今後の整理作業を待って再考する必要があるだろう。いずれにせよ、丘陵斜面を大規模に造成して営まれた集落の類例は決して多くはなく、貴重な調査成果といえる。



調査区平面図



平坦面の様子（南西から）



須恵器の出土状況



調査区全景（南上空から）



掘立柱建物跡 SB2（南から）



竪穴建物跡 SH108（西から）



竪穴建物跡 SH106・121（南から）

5 市場南山1号墳

所在地 小野市市場町
 事業者名 兵庫県北播磨県民局加東土木事務所
 事業名 県道加古川小野線（東播磨道北工区）
 担当者 稲本悠一・別府洋二
 種別 本発掘調査
 期間 令和3年7月15日～10月23日
 面積 182 m²



遺跡の位置（「三木」）

1 調査に至る経過

兵庫県北播磨県民局加東土木事務所は、小野市市場町において県道加古川小野線（東播磨道北工区）の建設を計画している。当該事業地は、市場南山1号墳として周知されている。このため、令和2年度に分布調査（遺跡調査番号:2020026）と確認調査（遺跡調査番号:2020050）が行われ、市場南山1号墳で埋蔵文化財が包蔵されていることが確認された。確認調査の成果を受け、市場南山1号墳の本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

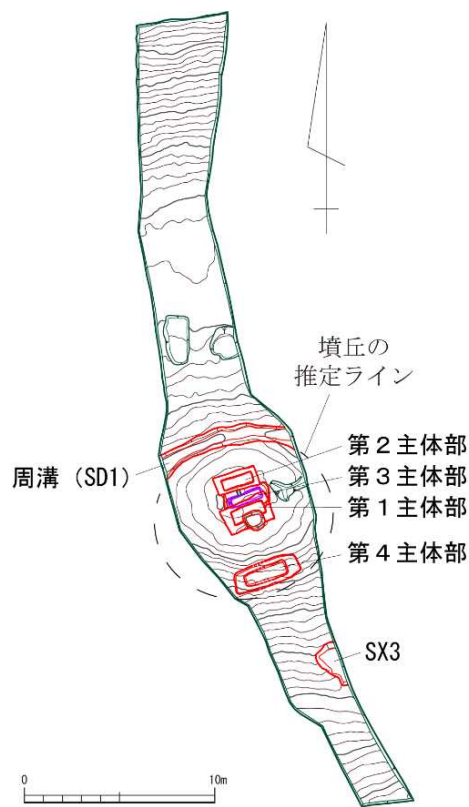
古墳1基と中世の遺物を包含する土坑を検出した。

【市場南山1号墳】

丘陵頂部からわずかに下がった南側斜面に立地する円墳である。標高は約67.8mの地点である。墳丘は南北約8.0mで、東西は調査区外のため確定しえないが、南北長よりやや長く、平面形は楕円形を呈する。墳丘は盛土によって形成され、一部流出したとみられるが、高さは周溝底から約0.8mを測る。墳丘の北側には幅約1.2m、深さ約0.4mの周溝（SD1）を伴う。

市場南山1号墳では、墳頂において3基、南側の墳丘斜面において1基、合計4基の埋葬施設を検出した。主体部はいずれも並列しており、埋葬方法は木棺直葬である。

第1主体部 墳頂の主体部の中で最も南側に位置する。主体部中央南側を後世の土坑に切られるが、残存状況はおおむね良好である。墓坑は、長辺約2.5m、短辺約1.5m、深さ約0.3mであり、東側短辺が西側短辺よりやや長い。木棺は長辺約1.8m、短辺約0.7m、深さ約0.3mである。木棺の小口の東側には白色の粘土が入れられていた。



調査区平面図

第2主体部 墳頂部の主体部の中で最も北側に位置する。墓坑は、長辺約2.3m、短辺約1.0m、深さ約0.2mである。第1主体部と同様に東側短辺が西側短辺よりやや長い。木棺の規模は長辺約1.6m、短辺約0.5m、深さ約0.2mである。

第3主体部 第1・第2主体部完掘後に検出した。墓坑は、長辺約2.4m、短辺約1.1m、深さ約0.4mである。木棺は長辺約1.7m、短辺約0.5m、深さ約0.4mである。

第1～3主体部からは副葬品が出土しておらず、詳細な年代は不明だが、断ち割り調査の結果、その構築順序は第3主体部→再度墳丘に盛り土→第1主体部・第2主体部となることが明らかになった。

第4主体部 南側の墳丘斜面において検出した。墓坑は北側の長辺が約3.0m、南側の長辺が約3.4m、短辺約1.2mと、南側が幅広の台形状を呈する。墳丘斜面に掘り込まれているため、深さは北側が約0.6mと深く、南側は約0.3mである。木棺は長辺約2.2m、短辺約0.7m、深さ約0.4mである。木棺の小口の両側には白色の粘土と河原礫が入れられていた。副葬品は、棺内から鉄刀一振り、鉄鏃8本、棺外から須恵器提瓶、高杯6個が出土した。第4主体部は出土した須恵器の特徴から6世紀末のものと考えられる。

【その他の遺構】

調査区南側斜面において土坑SK3を検出した。SK3からは、中世の土師器・須恵器が出土した。



市場南山1号墳全景（北から）



第1・2主体部（西から）

3 まとめ

今回の発掘調査では主に2時期の遺構と遺物を確認できた。市場南山1号墳の調査では、古墳時代後期の墓制を把握しうる貴重な成果を得ることができた。また、調査区南側斜面において中世の遺物を包含する土坑を検出したことから、具体的な内容は不明なものの、当地において人々が何らかの活動をおこなったと評価できる。



第4主体部出土の鉄刀・鉄鏃（左）と須恵器（右）



第4主体部（西から）

6 天神条里

所在地 加東市掬鹿谷
 事業者名 兵庫県北播磨県民局加東土木事務所
 事業名 (主)小野藍本線天神バイパス
 社会資本整備総合交付金事業
 担当者 稲本悠一・別府洋二
 種別 本発掘調査
 期間 令和3年5月11日～6月18日
 面積 261 m²



遺跡の位置（「天神」）

1 調査に至る経過

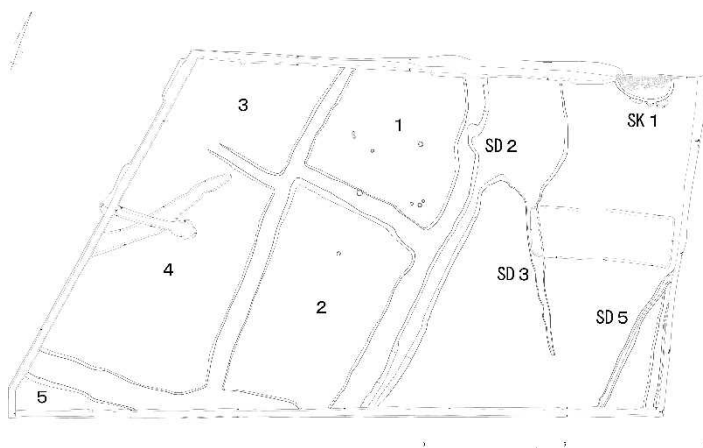
兵庫県北播磨県民局加東土木事務所による（主）小野藍本線 天神バイパスの建設に先立ち、県教育委員会が令和2年度に確認調査（遺跡調査番号：2020067）を行った。その結果、天神条里として周知されている地点で埋蔵文化財が包蔵されていることが確認された。確認調査の成果を受け、天神条里の本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

【水田跡と関連遺構】

調査区西半において、計5枚の水田を検出した。水田の平面形は一辺が4.8～7.5mの不整形を呈し、それぞれが幅0.4～0.9mの畦畔によって区画される。水田1の東側畦畔は東側に存在する溝SD2と並行し、緩やかにカーブすることから、溝によって水田の形が規定されたとみられる。水田は北東から南西に向かって僅かに低くなることから、調査で検出した部分についていえば、水田1を起点として1→2・3→4→5の順に水配りがなされたと考えられる。

水田の東側では溝SD2を検出した。水田に導水する水路と考えられる。当遺構は調査区北壁から3.6mの地点で幅を大きく減じ、南に向かって二方に分岐する。SD2から分岐して南東へと延びる溝はSD3とした。SD2の規模は、分岐以北は幅約3.55m、深さ12.0～25.0cmで、西側が東側よりわずかに深い。分岐以南は幅0.78m、深さは16.0cmで断面形は蒲鉾状を呈し、南北共に調査区外へと続く。分岐以北では、溝の上端が西側へと部分的に拡張し、畦畔に入り込む箇所が確認できた。これについては、水口の可能性が考えられる。当遺構からは古墳時代後期の須恵器が出土した。また、SD3は幅0.3m、深さ3.0cmで、北西から南東に向かって延びる。



調査区平面図

【その他の遺構・遺物】

調査区の北東隅で土坑 SK 1 を検出した。北側は調査区外へと広がる。規模は東西長 2.1m、南北の検出長 0.9m、深さ 67 cm を測る。多量の河原礫が埋められており、中から須恵器片や近世の丹波焼播鉢の破片が少量出土した。木桶の側板・底板等は確認できていないが、平面形や土坑の底から湧水がみられた点から、当遺構は近世の溜め井であった可能性が想定される。調査区中央では、柱穴 7 基を検出した。いずれも水田面より上層に伴うものと考えられるが、建物跡の復元はできず、柱穴の年代も不明である。

遺構に伴う遺物は僅少だが、水田検出面を覆う層からは、古代末から中世の陶磁器片が出土した。これらの多くは、概ね 12～13 世紀頃のものと思われる。細片が面的に広がって分布していたことから、中世以降に整地が行われ、その際に混入したものである可能性が高い。須恵器碗を主体として、中世の須恵器鉢・甕、土師器鍋、竜泉窯系青磁碗や白磁といった貿易陶磁器等が出土した。

3 まとめ

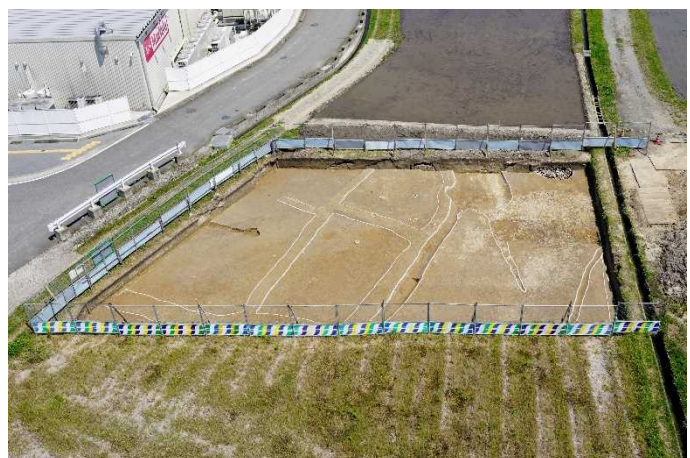
今回の調査では複数時期の遺構と遺物を確認した。最も新しい近世の遺構としては溜め井を検出した。次いで、遺構は確認していないが、中世の土器がまとまって出土しており、付近に集落が存在した可能性が想定される。そして、調査地点は中世以前に水田として利用されていたことが明らかになった。水田の時期については、導水用の水路とみられる SD 2 から出土した古墳時代後期の須恵器が注目される。さらに、検出した畦畔の方向は、付近に残存する条里地割の方向（N28° W）とは異なるため、条里施工以前のものと捉えられる。以上を踏まえると、水田は古墳時代後期のものの可能性が考えられる。



SD 2・3 全景（北から）



SD 2 須恵器出土状況（北東から）

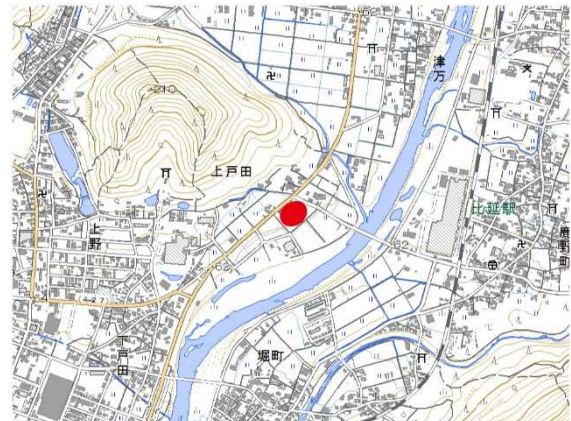


調査区全景（南東から）

かみとだ
7 上戸田遺跡

遺跡調査番号 2021006

所在地 西脇市上戸田
事業者名 国土交通省近畿地方整備局
兵庫国道事務所
事業名 一般国道 175 号西脇北バイパス事業
担当者 園原悠斗・西山昌孝
種別 本発掘調査
期間 令和 3 年 7 月 6 日～12 月 23 日
面積 3,266 m²



遺跡の位置（「西脇」）

1 調査に至る経過

国土交通省近畿地方整備局兵庫国道事務所による一般国道 175 号西脇北バイパス事業に伴い、本発掘調査を実施した。これまで同事業に関連した本発掘調査は、上戸田遺跡の範囲内においては平成 30 年度から令和 2 年度にかけて 3 次にわたり実施されている。今回の調査範囲は令和元年度調査及び令和 2 年度調査の南西側に位置しており、現道の関係から調査区を 8 つに分けて実施した。

2 調査の概要

【1 区】 溝、ピットを検出した。遺構から出土した遺物は非常に少なく、時期決定は困難であるが、溝からは平安時代～鎌倉時代の須恵器片が数点出土している。

【2 区】 竪穴建物跡 1 棟、溝、土坑、ピットを検出した。竪穴建物跡は、昭和 56 年に圃場整備に伴って西脇市教育委員会が調査を行った際に検出し、地下保存となったものである。本調査では再掘削を行い、2～3 回の建て替えの痕跡が確認できた。また、西側に方形の張り出し部を新たに検出した。帰属時期は、柱穴や周壁溝から出土した土器から弥生時代終末期～古墳時代初頭である。竪穴建物跡の西側に流れる溝 2 条は、埋土から中世の須恵器片が少量出土しており、埋没時期は当該期である。



2 区で検出した竪穴建物跡



3 区で検出した 2 棟の竪穴建物跡



4区の掘立柱建物群



4区の蔵骨器埋納土坑

【3区】 竪穴建物跡5棟、溝、土坑、ピットを検出した。竪穴建物跡は、円形が4棟と平面形不明が1棟である。平面形不明の竪穴建物跡は、中央土坑と4本の支柱穴の位置関係から推定した。これら竪穴建物跡は、出土土器が僅少であり時期決定は困難であるが、小片から弥生時代終末期頃であると考えられる。その他の溝や土坑も、遺物の出土は僅少であり時期決定には慎重な判断を要する。遺構の密度は調査区北東側に集中しており、集落の縁辺部である可能性が高い。微地形においても竪穴建物跡周辺は微高地となっており南西に向かうほど低くなっている。土地利用の様子が窺える。

【4区】 古墳時代初頭の円形周溝と、平安時代後期頃の掘立柱建物跡4棟、木棺墓、蔵骨器埋納土坑、溝、土坑、ピットを検出した。古墳時代初頭の円形周溝は調査区北東隅で検出した。大部分は調査区外へ続いている。検出規模は周溝の外側で7mを測る。遺物は多く、土師器の高坏や壺が多い。また、長さ3cm程度の鉄器が1点出土している。平安時代後期頃の掘立柱建物跡は、南北方向に軸をもち、うち3棟は規則的に並んで建てられている。これらの建物の柱穴は、いずれも柱が抜き取られており、代わりに土師器や須恵器、石を埋めている。これは建物廃絶時に地鎮の意味を込めて埋納した可能性が考えられる。また、建物周囲のピットからも須恵器や土師器が出土しており、同様の理由で埋められたと考えられる。蔵骨器埋納土坑は、掘立柱建物跡に隣接して見つかっており、屋敷墓であると言える。木棺墓については、掘立柱建物跡と切り合い関係にあり、建物廃絶後に木棺墓が造られている。墓内部からは、完形の土師器と共に鉄製刀子が出土している。

【5区】 弥生時代終末期の溝と、古墳時代以降の水田畦畔、中世の掘立柱建物跡1棟、溝、土坑、ピットを検出した。弥生時代終末期の溝は東西方向に流れており、3度の再掘削が行われている。遺物は埋土中から土器を中心に多量に出土している。中世の掘立柱建物跡は南北方向に軸をもつ。桁行4間、梁行1間の小規模なもので、小屋としての利用が想定される。柱穴埋土から出土した須恵器片から平安時代後期～鎌倉時代頃の廃絶が想定される。この建物の東側に隣接する溝からは、平安時代後期～鎌倉時代頃の須恵器が出土しており、建物と同一時期に存在した可能性が考えられる。

【6区】 溝、ピットを検出した。当調査区は遺構と遺物が極めて僅少である。北側に隣接する5区の南端には落ち込み（谷状地形）が見られ、南側調査区外へと続いていることから、6区は全体的にこの落ち込み内にあたると推測される。

【7区】 弥生時代終末期の溝と中世のピットを検出した。いずれも遺物の出土量は極めて少ない。

【8区】 弥生時代終末期の溝と古墳時代初頭の竪穴建物跡1棟、古墳時代以降の水田畦畔、中世の溝、土坑、ピットを検出した。弥生時代終末期の溝は5区で検出した溝の続きであり、同様に3度の再掘削が行われている。土器の出土は極めて多い。古墳時代初頭の竪穴建物跡は8区で見つっており、平面形は方形である。東側は調査区外へと続いている。



土器が多量に出土した8区の溝

3 まとめ

上戸田遺跡は加古川中流域右岸の自然堤防上に位置している。微地形としては、本調査において

4区・5区の間及び7区・8区の間と、5区から6区にかけて及び8区南側の2箇所、東西方向の谷状地形が存在することが判明した。この谷状地形に挟まれた場所は微高地となっており、起伏に富んだ地形であると言える。ただし、微高地上は後世の削平を受けており、遺構の遺存状況は芳しくない。

本調査においては、この微高地上を中心に弥生時代終末期から鎌倉時代にかけての幅広い時期の遺構と遺物が見つかった。とりわけ、微高地上では竪穴建物や掘立柱建物を中心とした集落形成が見受けられ、微高地から下がった谷状地形を含む低い場所には水田が広がっていたことが判明し、土地利用の状況が確認できた。また、微高地上にあたる4区では古墳時代初頭の円形周溝を検出し、小規模な墳丘墓であると判断できる。令和2年度調査においても同様の円形周溝が1条見つっており、加古川に向かって広がる舌状に張り出した微高地上に当該期の墳丘墓群が形成されていた可能性が考えられる。今回の調査では、微地形に基づいた土地利用の様子と、弥生時代～古墳時代と平安時代の2時期の集落形成の状況を捉えられたことが調査成果であると言える。



調査区（写真手前）から南側の西脇市内を望む

8 登り田遺跡

所在地 姫路市継

事業者名 兵庫県中播磨県民センター姫路土木事務所

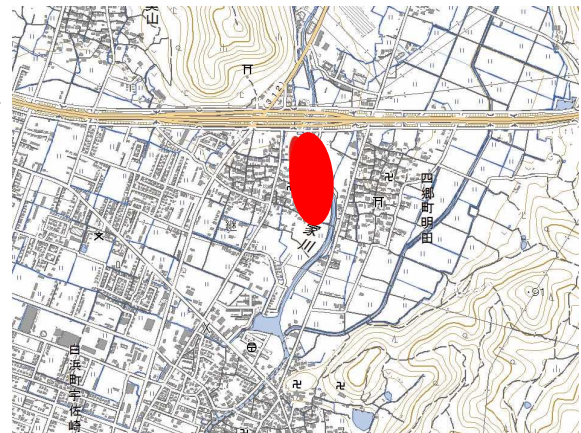
事業名 事業間連携河川事業

担当者 青山 航・岸本一宏・乗本愛実・松崎光伸

種別 本発掘調査

期間 令和3年4月5日～12月24日

面積 13,312 m²



遺跡の位置（「姫路南部」）

1 調査に至る経過

兵庫県中播磨県民センター姫路土木事務所は、姫路市継において事業間連携河川事業を計画している。事業対象地では平成29年度に県教育委員会が分布調査を実施し、弥生時代～中世の土器を採集した。令和元年度、令和2年度の確認調査（遺跡調査番号：2019070・2020042）により埋蔵文化財が包蔵されていることが確認されたため、令和2年度から本発掘調査を実施している。

2 調査の概要

登り田遺跡の調査は調査区をA～G区に分けて実施しており、令和3年度はE、F、G区の発掘調査を行った。なお、A～D区の発掘調査に関しては、令和2年度に既に完了している。

【E区】

E-1区 掘立柱建物跡1棟（SB3-1）、溝（SD3-55、SD3-74 他）、土坑、井戸（SE3-25 他）、土器溜まり、護岸杭列を検出した。遺物は縄紋時代～中世の幅広い時期の遺物が出土した。遺物や遺構の帰属時期の大半は古代と考えられるが、古墳時代初頭（庄内式土器期）のものも一定量確認している。

SD3-74の一部では大量の土器が出土した。出土状況から捨て場と考えられる。遺物は多くが奈良時代～平安時代前期のものであった。須恵器、土師器が大半を占めているが、緑釉陶器、木製の杓子、獣骨なども出土した。

SE3-25は掘り方の直径約2.8m、井戸枠は直径約0.5mの曲物を5段積み重ねている。遺物は掘り方から呪符木簡、樟葉型瓦器碗、須恵器、土師皿等が出土した。遺物から11世紀後半から12世紀前半に設けられた井戸と考えられ、掘り方に対し井戸枠が極端に小さい点から井戸を掘りなおしている可能性もある。

E-2区 E-1区の遺構面から約1.2m掘り下げた所で貝層を検出した。貝層の厚さは厚い所では約0.5m、薄い所では約0.1mとばらつきがあった。土層は貝と比べ土の方が多い混貝土層となる。

10月27日に東海大学丸山真史准教授から意見を伺い、ウミニナ、オキシジミ、ハマグリ、ハイガイ、マガキなどを確認した。また、付近のトレンチから縄紋時代後期後半と考えられる縄紋土器が出土した。貝層の範囲確認のため、調査区北端から約15 m²北側で重機掘削による確認を行ったが貝層は確認できなかった。

E-3区 E-1区 SD3-55-3 東側で東西に延びる護岸杭列を検出した。この護岸杭列は調査区の東に延びる可能性が高かった。そのため、E-1区の東側約 525 m²を拡張し調査を実施した。その結果、E-1区の中央やや東からE-3区東端まで現在の八家川に垂直に護岸杭列が2列並んでいることを確認した。北側の杭列と南側の杭列の間隔は約 3.5m、北側の杭列には 19 本の杭が、南側の杭列には 37 本の杭があり、北側に比べ南側の方が密に打たれていた。杭の中には柱を転用したと考えられる直径が約 0.3 mとなるものもあった。

【F区】

粗朶 (SX3-121) を検出した。昨年度発掘調査を行ったC区及びD区でも同様のものを検出し、総延長は確認できた範囲で約 80mになる。粗朶の東側には杭が打ち込まれていた。杭の長さは調査区北側の杭は 1 mないしはそれを超えるものがほとんどであった。一方、調査区南側の杭は長さが 0.5m以下のものがほとんどであった。昨年度の発掘調査でも北側で検出した杭は長いものが多く、南側で検出した杭は短かった。そのため、昨年度の調査と同様の成果を得られた。また、北側を中心に一部杭列が2列になっていた。上部の堤防を作り直す際に粗朶を敷き直すなどの補修を行ったものと考えられる。杭の樹皮ははがされていないものが多かった。枝打ちは行っているものの、節を平滑にする処理は行われておらず、粗雑な作りとなっていた。杭に使われている木材は松と考えられる。粗朶は、北側は比較的密に敷かれていた。一方、南側ではほとんど敷かれていなかった。この傾向も昨年度の調査と合致する結果となった。粗朶に使われている木材は松と考えられる。

粗朶内からは古代でも比較的古い飛鳥時代後半の遺物が出土した。上部の盛土は既に削平を受けているものの、杭が東側にのみ打たれている点、粗朶敷きの幅は 1 m程度と比較的狭い点、堆積状況から粗朶の東側は八家川の氾濫原と考えられる点などから、この粗朶は八家川治水のための堤防の下部構造と考えられる。

【G区】

掘立柱建物跡 4 棟 (SB3-2、SB3-3。残り 2 棟は昨年度調査で検出した掘立柱建物跡の一部)、溝、土坑、ピットを検出した。遺構遺物の多くが古代前半のものだが、一部古墳時代初頭 (庄内式土器期) の遺物を確認している。

SB3-2 は 3 間×3 間、5.2m×5.3mの側柱建物である。検出状況から考え、G区の北に続いている可能性が高い。SP3-151、SP3-152 には柱痕の下に礎盤石が敷かれていた。SB3-1 や、昨年度の掘立柱建物の柱穴でも確認されており、軟弱地盤である当遺跡の柱の沈下を防ぐために敷かれたものと考えられる。

SB3-3 は 2 間×2 間、3.6m×3.6mの総柱建物である。昨年度の調査でも 2 間×2 間や、3 間×3 間の比較的小規模な総柱建物を検出しており、倉庫群などになる可能性が指摘できる。

3 まとめ

本調査の概観を時代ごとに箇条書きにして述べる。

①古墳時代初頭

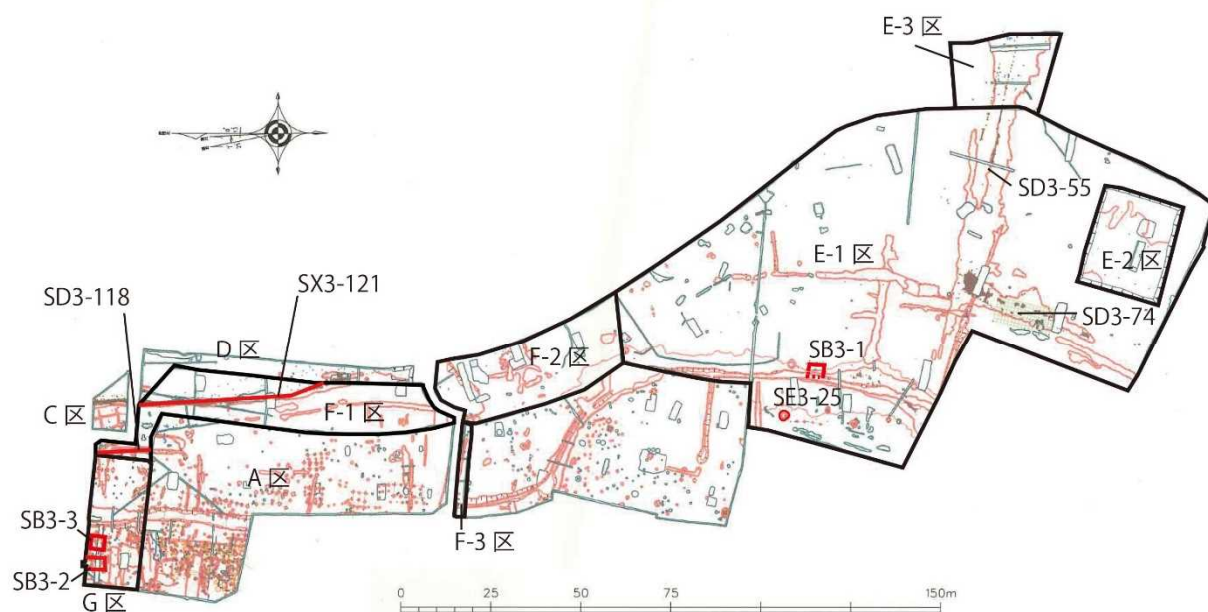
E-1区の溝から庄内式土器がまとまって出土した。その他、G区でも同時期の土器が出土している。この時期の遺構は昨年度、B区南側で素掘りの井戸、土坑などを検出している。そのため、古墳時代初頭の遺跡の中心はB区南側からE区東側にかけてにあると考えられ、調査区の西側に続く可能性を指摘できる。

②古代

F区で敷粗朶を検出した。昨年度調査区C区、D区で検出した粗朶と同一のものと考えられる。確認している範囲で総延長は80m。C区北側の調査区外に粗朶は延びると考えられる。粗朶付近及び粗朶に絡む形で飛鳥時代後半と考えられる遺物が出土している。そのため、この時期に作られた堤防の下部構造と考えられる。

昨年度に引き続き各調査区から瓦、緑釉陶器、墨書土器、製塩土器、土馬、木製人形などの官衙的要素の強い遺物が出土した。また、これまで確認できた掘立柱建物跡は昨年度の調査を含めると30棟近くになる。総延長80mの堤防の下部構造と考えられる粗朶、直径0.3mを超える柱を転用した護岸施設なども含め、この遺跡は公の施設に関連するものと考えられる。そのため、播磨国風土記飾磨郡美濃里の条にある「継潮（つぎのみなど）」の一部が登り田遺跡である可能性が非常に高い。

E区SE3-25からは平安時代後期～中世にかけて畿内に分布の中心がある樟葉型の瓦器碗が出土した。この瓦器碗は畿内以外の地域では石清水八幡宮に関連する遺跡から出土する傾向があることが先学の研究で示されている。継に関しても石清水文書より保元3（1158）年には石清水八幡宮の荘園であったことがわかっており、考古資料からも石清水八幡宮との関係を立証できた。



A～D区は令和2年度調査。E-1～G区は今回（令和3年度）発掘調査。今回調査区は黒線で明記。

登り田遺跡調査区配置図



E-1 区全景(真上から、上が西)



E-3 区全景(西から)



F-1 区全景 (南から)



G 区全景 (東から)



E-1 区 SD3-60 庄内式土器出土状況(北から)



E-1 区 SE3-25 井戸杵出土状況(南から)



E-1 区 SD3-74 捨て場遺物検出状況(東から)



E-2 区貝層上面検出状況



E-3 区 SD3-55 護岸杭列断割状況(南から)



F-1 区 SX3-121 粗朶出土状況(北から)



F-1 区 SD3-118 遺物出土状況(南から)



G 区 SB3-2 掘立柱建物跡検出状況(南から)

うねむれ いだ
9 有年牟礼・井田遺跡

遺跡調査番号 2021004

所在地 赤穂市有年牟礼
事業者名 国土交通省近畿地方整備局
姫路河川国道事務所
事業名 一般国道2号相生有年道路改築事業
担当者 園原悠斗・西山昌孝
種別 本発掘調査
期間 令和3年4月13日～6月3日
面積 739 m²



遺跡の位置（「二木・相生」）

1 調査に至る経過

国土交通省近畿地方整備局姫路河川国道事務所による一般国道2号相生有年道路改築事業に伴い、本発掘調査を実施した。これまで同事業に関連した本発掘調査は、有年牟礼・井田遺跡の範囲内においては平成21年度から平成30年度にかけて5次にわたり実施されている。今回の調査範囲は平成23年度調査の1区と2区の間に位置している。

2 調査の概要

調査の結果、竪穴建物跡、土坑、溝、柱穴を検出した。竪穴建物跡は円形1棟、方形1棟を検出した。円形竪穴建物では周壁溝を検出した。周壁溝から復元される建物の直径は5.5mである。建物に関連する遺構として、柱穴と土坑を検出した。この土坑は建物の中心から大きくずれており、中央土坑である可能性は低い。周壁溝から出土した土器から、この建物跡の帰属時期は弥生時代中期後葉であると考えられる。

方形竪穴建物の検出規模は東西2.9m、南北3.0mであるが、西側は攪乱、東側はコンクリート構造物があるため、東西方向の規模はさらに大きくなると考えられる。建物跡に関連する遺構として、楕円形の中央土坑と支柱穴と推測される柱穴が4基、その他柱穴6基を検出した。周壁溝は作られていなかった。遺物は床面直上及び中央土坑内から弥生土器片と砥石が出土した。帰属時期は判然としないものの、弥生時代中期後半～後期であると考えられる。

土坑は6基検出した。そのうち建物内の土坑からは、土圧によって押しつぶされた弥生土器と炭化物・灰が見つかった。規模は長軸2m、短軸1mの楕円形であり、深さは22cmである。床面から10cm



円形と方形の竪穴建物



土坑から出土した弥生時代中期後葉の土器 1



土坑から出土した弥生時代中期後葉の土器 2

の厚さで炭化物を多く含み、その直上に灰白色の灰が見られた。この炭化物・灰層の直上で多量の土器が出土した。土器は甕・壺が見つかっており、少なくとも3個体以上確認できる。土器の様相から、この土坑の帰属時期は弥生時代中期後葉であると考えられる。

溝は17条検出した。そのうちの2条は、調査区西側で南北方向に平行して流れている。これらは平成23年度調査のSD07・SD08に対応すると考えられる。この両溝の埋土中からは、弥生時代後期末～古墳時代初頭頃の土器が出土しており、埋没時期はこれに対応すると考えられる。

柱穴は50基以上検出した。掘立柱建物に復元できるものはない。

その他に、調査区中央付近で流路跡を検出した。埋土中から弥生時代後期の土器片や、古墳時代前期の小型丸底壺などが出土している。

3 まとめ

今回の調査では、弥生時代中期後葉～後期頃の竪穴建物跡2棟や、弥生時代後期～古墳時代初頭・古墳時代中期～後期の溝などが見つかった。これらと既往の調査を合わせると、本年度調査区の南東部が弥生時代～古墳時代にかけての居住域の西端であると考えられる。この居住域より西側は、本年度調査においても遺構の数は減少し、溝が中心となる。本年度調査を含めた6度にわたる調査によって、有年牟礼・井田遺跡の居住域の中心とその周縁部の様相が明らかとなったと言える。



東側から調査区を望む



南側から調査区を望む

10 中村遺跡

所在地 養父市大屋町宮本
 事業者名 兵庫県但馬県民局養父土木事務所
 事業名 (主) 養父宍粟線門野バイパス
 道路改良事業
 担当者 垣内拓郎・松崎光伸
 種別 本発掘調査
 期間 令和3年8月11日～10月11日
 面積 432 m²



遺跡の位置（「大屋市場」）

1 調査に至る経過

兵庫県但馬県民局養父土木事務所は、(主) 養父宍粟線門野バイパス道路改良事業を計画している。事業地周辺は中村遺跡として周知され、旧大屋町教育委員会が昭和60・61年には圃場整備に先立つ試掘調査や、平成11年の町道宮本中村線改良工事に伴う発掘調査を実施しているほか、平成15年・16年度に町道宮本中村坂本支線改良事業に伴う試掘及び本発掘調査を実施している。さらに、当該事業地では、県教育委員会が令和3年度に確認調査（遺跡調査番号：2021012）を実施し、埋蔵文化財の存在が確認されたことから、但馬県民局長からの依頼に基づき本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

中村遺跡は、蛇行しながら北流する明延川の南岸に形成された河岸段丘上に立地する。遺跡北側では東の山間から流れる宮本川が明延川に合流しており、河岸段丘上には支流性扇状地も形成されていたとみられる。事業地において、県道6号線から派生して南東から北西の方向に延びる農道の南西側に沿って調査区を設定した。調査区は、南東側の1区と北西側の2区の2箇所にあたっており、各調査区との間に平成11年に発掘調査された町道北端部分を接して挟む。調査区はいずれも狭小で、その規模は、幅は2～6mで1区が長さ約30m、2区が長さ約55mとなっている。

1970年代の調査地周辺の空中写真で圃場整備前の地形を確認すると、1・2区の東半分が段丘面上にあたり、2区の西側半分は、段丘の裾を巡り、北側に低くなる棚田部分にあたると判読できる。

【1区の調査成果】

1区では、古墳時代末～飛鳥時代の竪穴建物跡2棟の他、柱穴、土坑を検出した。竪穴建物はいずれも約6m×約7mの平面方形～長方形に復原される。調査区の北西隅で検出された竪穴建物跡は、平成11年に旧大屋町教育委員会の調査で検出されたものと繋がる。柱穴については建物を復原できなかった。また、竪穴建物跡の直下層では、幅約6～7m、深さ約0.6mの溝が検出された。

【2区の調査成果】

2区では、竪穴建物跡2棟や、100基を超える柱穴のほか土坑などが検出された。竪穴建物跡はいずれも一部分のみ確認となっているが、弥生時代末～古墳時代初頭頃のものと考えられ、1棟は平面円形で直径約7.8mに復原でき、もう1棟は一辺約3.5m以上の平面方形に復原できる。多数の柱穴について

は、2区中央部に集中しているが建物として復原できず、複数の時期に渡って建替がなされたとみられるものの、帰属時期は十分な遺物の出土もなく不明である。

3 まとめ

今回の調査では、竪穴建物跡4棟、100基を越える多数の柱穴、土坑、溝が見つかった。

竪穴建物跡は、弥生時代末～古墳時代初頭、古墳時代末～飛鳥時代のものがみつき、多数の柱穴も複数時期にわたって建物の存在と建替が示唆された。遺構は、1区北西から2区に向かって遺構密度が高くなっているが、確認調査の結果を踏まえると河岸段丘の縁辺部分が集落の端にあたると考えられる。

また、今回の調査区の段丘縁辺の西側延長上にある宮本地区の集落に繋がる町道部分において、大屋町教育委員会が平成15・16年度に実施した調査では、中世の遺物が出土しているほかに、中村遺跡から宮本川を挟んだ対岸の丘陵尾根上を初めとして周辺の山地には、中世の城砦跡の存在が知られている。このことから、中村遺跡を初めとした段丘部分や、現在の宮本及び隣接する門野地区の一部の集落部分を含む山裾部分には弥生時代末～中世までの遺跡が広がる可能性があり、現在まで連綿と集落が営まれてきたと考えられる。



調査区遠景（南東から）



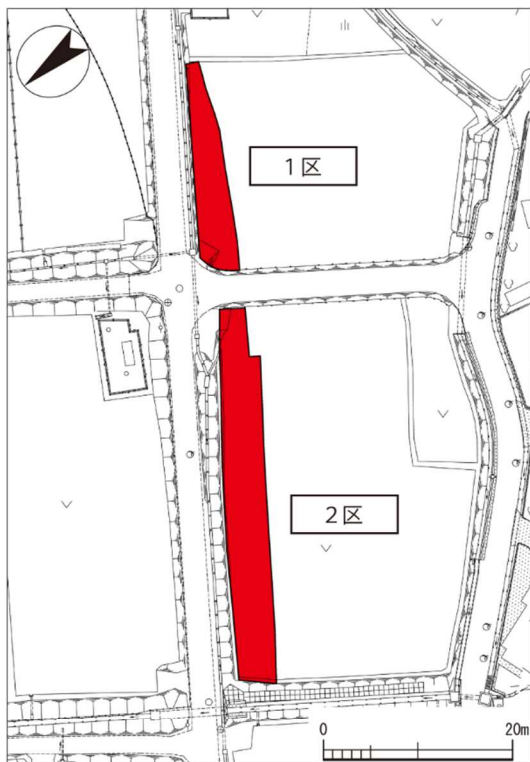
1区全景（北西から）



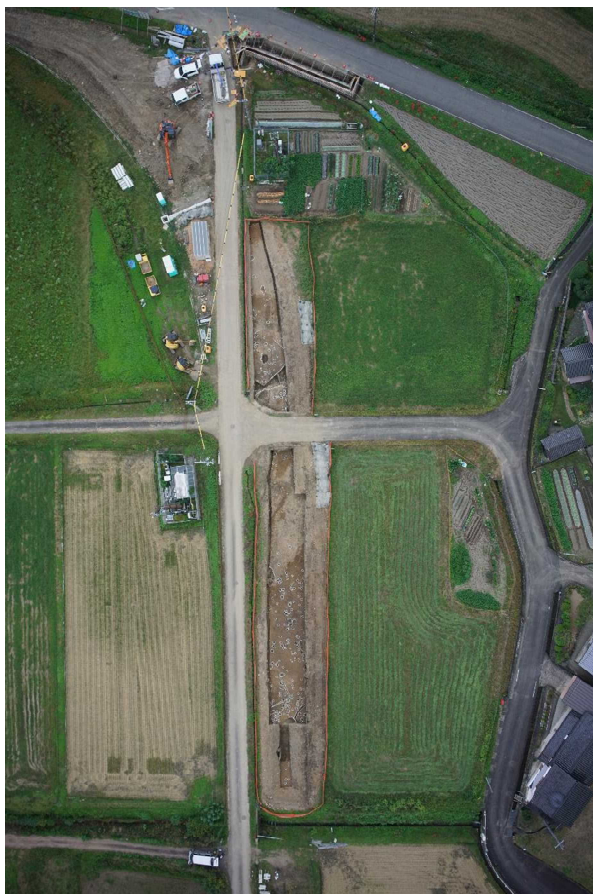
2区全景（北西から）



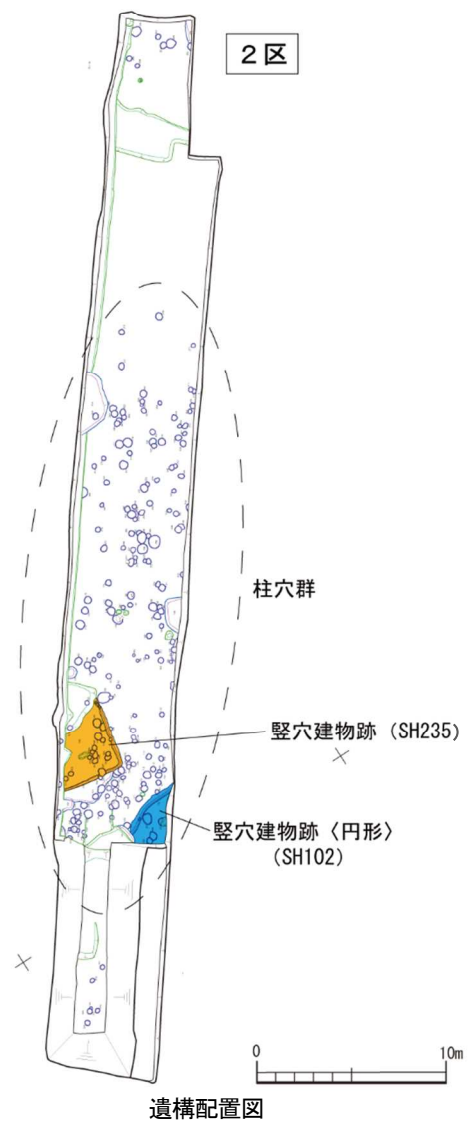
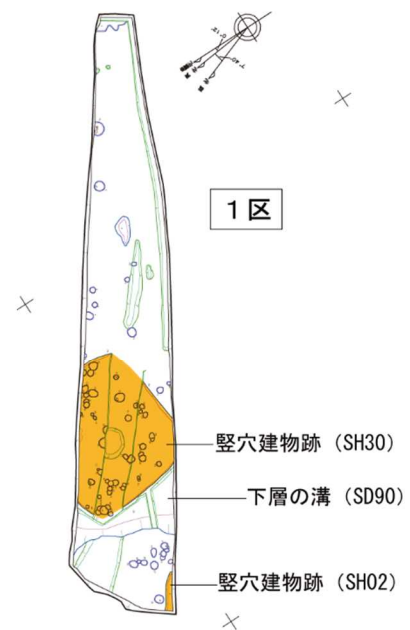
1区竪穴建物跡全景（南西から）



調査区位置図



調査区全景俯瞰（真上から、写真上が南東）



遺構配置図

11 住吉川右岸遺跡

所在地 丹波篠山市味間南

事業者名 兵庫県丹波県民局丹波土木事務所

事業名 (主) 西脇篠山線味間工区道路改良事業

担当者 園原悠斗・別府洋二・西山昌孝

種別 本発掘調査

期間 令和4年1月25日～年3月10日

面積 824 m²



遺跡の位置（「篠山」）

1 調査に至る経過

兵庫県丹波県民局丹波土木事務所による（主）西脇篠山線味間工区道路改良事業を計画している。県教育委員会が平成18年度に分布調査（遺跡調査番号：2006181）を行い、さらに令和3年度に詳細分布調査（遺跡調査番号：2021048）を実施した。その結果、埋蔵文化財が遺存していることが明らかとなった。以上のことから、丹波県民局の依頼に基づき、本発掘調査を実施した。

2 調査の概要

弥生時代中期後葉～鎌倉時代（13世紀頃）にかけての幅広い時代の遺構を検出し、土器、鉄器等の遺物が出土した。

弥生時代中期後葉 溝を1条検出した。出土した土器は、器形および施文された文様から丹波地域で作られたものである。

古墳時代中期 竪穴建物跡2棟や土坑を検出した。竪穴建物跡はいずれも平面形は方形である。一棟は一辺が約4.0mである。北西辺の一部が調査区外へ広がる。北西辺中央付近にはカマドを1基付設している。カマドの北隣には深さ50cm程度の土坑を検出しており、焼土や炭化物を含む埋土から製塩土器が出土している。また、建物中央付近には直径60cm程度の円形被熱面が見受けられた。被熱深度は建物床面から4cm程度であり、顕著に火を受けていたことがわかる。また、建物内からは粘土塊を検出している。土器製作用かカマド構築材かについては検討の余地を残す。もう一棟は、長辺約3.5m、短辺約4.0mの平面長方形を呈する。建物東隅や西隅から中央部に向けて放射線状に炭化した屋根材を検出しており、焼失住居であると言える。

奈良～平安時代 掘立柱建物跡3棟以上やピット多数、焼土坑、土坑などを検出した。掘立柱建物跡を含むピット群は、調査区中央南寄りに集中する。ピットは一辺40～60cmの方形のものが多く、埋土からは奈良時代～平安時代頃の須恵器が出土している。掘立柱建物跡は多数存在すると考えられるが、調査終了速報段階では3棟とする。いずれも総柱建物であり、倉庫としての利用が想定される。この建物



カマドをもつ竪穴建物跡



奈良時代～平安時代の方形柱穴群



溝状土坑から出土した須恵器蓋転用硯

の北側 10mほどの溝状土坑からは、須恵器蓋を転用した硯が出土している。焼土坑は調査区北側で 2 基隣接する。土坑底面に 0.5～1.0 cm 程度の炭化物や灰が見つかっており、その上や土坑縁辺には焼土も見られる。小鍛冶に関する遺構であると考えられる。なお、この焼土坑のうち北側の 1 基は調査区外へ続いている。

平安時代末～鎌倉時代 掘立柱建物跡 1 棟や、溝、土坑、ピットを検出した。掘立柱建物跡は調査区北東部で検出している。完存せず、検出した規模は梁行 2 間、桁行 6 間である。しかし柱並びは悪く、柱間も不統一であるため、検討を要する。溝は調査区を北西-南東方向に流れるものと、南北方向に流れるものを検出した。両溝とも規模や出土する土器の時期が同一であるため、直角に曲がる集落の区画溝であると考えられる。なお、この区画溝は調査区南側へ続いている。上述した掘立柱建物はこの区画溝の内部に造られており、主軸を同じくする。また、円形ピットも多く検出しており、さらに掘立柱建物が建つと思われる。調査区北側では、この区画溝埋没後に造られた木棺墓を 2 基隣接して検出した。木棺墓からは白磁碗と鉄製短刀、須恵器碗が出土した。



並び合う木棺墓

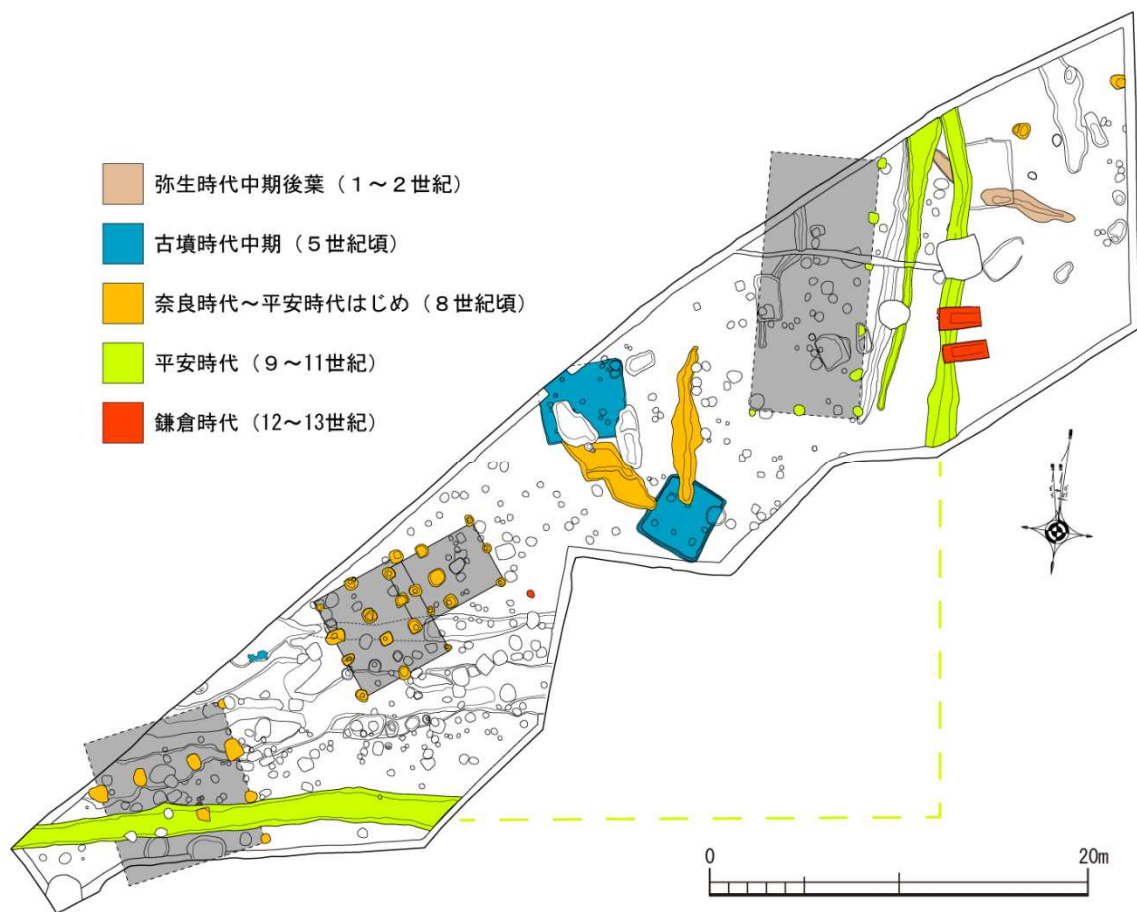
以上の遺構の他、南北方向に流れる流路を検出した。流路からは古墳時代初頭（布留式併行）頃の土師器や平安時代頃の須恵器が出土する。この流路の西側肩の一部は、平坦に整地されており、そこからは土師器壺と共に炭化物を多く検出した。川辺の祭祀の可能性が考えられる。

3 まとめ

住吉川右岸遺跡は篠山川支流の住吉川の右岸に位置する。地理的区分では、白髪岳など西脇市との市境に連なる山塊から端を発した扇状地上に立地する。この住吉川右岸遺跡の周辺には、南側に味間南遺跡（弥生時代～中世）、北側に三釈迦山北麓遺跡群（弥生時代～中世）が確認されており、三釈迦山南麓

には横穴式石室をもつ後期～終末期古墳が分布する。以上のような環境のなか、今回の調査では幅広い時代の遺構と遺物が見つかった。古墳時代、奈良時代、平安時代の建物跡を検出したことから、長期間にわたって居住域として当地を利用していたことが分かる。また、奈良時代の規模の大きい掘立柱建物群の検出は、西紀郡衙との関係性や役所的機能の想定を踏まえ、丹波篠山市では注目される成果であると言える。また、平安時代の区画溝やピット群、出土する須恵器や土師器の様相から、周辺に造られていたと考えられる味間荘（味間二品勅旨田）に関係する集落であった可能性も考えられる。

以上のように、住吉川右岸遺跡は遺構・遺物が良好に遺る複合遺跡であったと言え、調査地の東西南北各方向にさらに遺跡が拡がると言えるであろう。



調査区の平面図と主要遺構

第3章 出土品整理事業の概要

出土品整理については全て（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部に委託し、兵庫県立考古博物館及び同魚住分館にて作業を行った。実施した作業は水洗い、ネーミング、接合・補強、復元、実測、写真撮影、図面補正、トレース、レイアウト、保存処理、分析鑑定、報告書印刷であり、このうち写真撮影と分析鑑定についてはまちづくり技術センターから専門業者に委託して実施した。



刊行報告書

令和3年度に出土品整理を実施した事業は下表のとおり 17 件であり、内訳は国事業 6 件、県事業 10 件、町事業 1 件である。このうち 4 件については最終年度として発掘査報告書を刊行した。

	事業者	事業名	遺跡名	報告書 冊番号
1	国土交通省 近畿地方整備局 兵庫国道事務所	一般国道 175 号西脇北バイパス事業	津万遺跡群 2	第 518 冊
2			津万遺跡群 4	
3			津万井近世窯跡	
4		国道 2 号明石駅前交差点改良事業	明石城武家屋敷後	
5	国土交通省 近畿地方整備局 豊岡河川国道事務所	一般国道 483 号北近畿豊岡自動車道 八鹿豊岡南道路	南構古墳群	
6	国土交通省 近畿地方整備局 姫路河川国道事務所	一般国道 2 号バイパス改築事業	池ノ下遺跡	
7	兵庫県東播磨県民局 加古川土木事務所	東播磨南北道路北工区（主要地方道加古川小野線）道路改築事業	宗佐遺跡・宗佐南遺跡	
8	兵庫県中播磨県民 センター 姫路土木事務所	（主）太子御津線 社会資本整備交付金事業	前田遺跡・中筋遺跡	
9		（一）広畑青山線 社会資本整備総合交付金事業	郷着遺跡・才村遺跡	
10	兵庫県西播磨県民局 龍野土木事務所	（主）太子御津線 社会資本整備総合交付金 事業	鍛冶田遺跡	第 519 冊
11		（国）179 号（太子道路）防災・安全交付金事業	鵜遺跡	
12			鵜北遺跡・城山遺跡	
13			樋ノ上遺跡・福田小川原遺跡	

	事業者	事業名	遺跡名	報告書 冊番号
14	兵庫県西播磨県民局 光都農林振興事務所	県単独緊急防災事業	竹原 9 号窯	第 520 冊
15	兵庫県但馬県民局 養父土木事務所	(急) 上地(3)地区急傾斜地崩壊対策事業	音谷 1 号墳	第 521 冊
16	兵庫県政策創生部	県庁発祥の地整備事業	兵庫津遺跡	
17	新温泉町	新温泉町新残土処分場整備事業	和泉谷・津原古墳群	

第4章 市町支援事業の概要（市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業）

1 事業の概要

平成29年度より、市町教育委員会の埋蔵文化財発掘調査を支援するために、「市町埋蔵文化財発掘調査支援促進事業」を開始した。この事業は発掘調査量の一時的な急増に伴う人員の不足や、経験の少ない職員の技能向上など、市町教育委員会が抱える課題に対して支援をおこなうものである。事業は（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部が県教育委員会文化財課・県立考古博物館との連携・協力により実施している。今年度の該当事業はなかった。

2 市町職員研修

【概要】

市町等の埋蔵文化財担当職員の資質向上をはかるため、兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部と兵庫県教育委員会・兵庫県立考古博物館との連携・協力により、業務の遂行に必要な知識・技術に関する研修及び発掘調査成果連絡会を実施した。

【埋蔵文化財担当職員研修（専門技術研修）】

テーマ 埋蔵文化財保護行政について

出土品整理事業における遺物接合作業の効率的な手法と再現性の高い遺物写真撮影について

（講義・実習内容・講師は下の表のとおり）

日時 令和3年10月6日（水）～7日（木）

対象 採用後概ね5年以内の市町等埋蔵文化財担当職員

会場 兵庫県立考古博物館 講堂・遺物整理室
・写真撮影室



参加者 20名

研修状況

	内 容	講 師
講義1	文化財保護の目的と意義—埋蔵文化財調査の目的と保護の意義について—	柏原正民（兵庫県教育委員会文化財課副課長）
講義2	出土遺物の収蔵について—方法・現状と課題—	菱田淳子（兵庫県立考古博物館学芸課主任）
講義3	文化財保護法改正をめぐって	甲斐昭光（兵庫県教育委員会文化財課長）
講義4	出土品整理の工程と計画について	深江英憲（（公財）兵庫県まちづくり技術センター整理保存課長）
実習1	効率的な接合作業の手法	篠宮 正（（公財）兵庫県まちづくり技術センター調査第2課長）
実習2	遺物写真撮影の手法	深江英憲（（公財）兵庫県まちづくり技術センター整理保存課長） 中本照雄（遺物写真カメラマン）

第5章 発掘調査・出土品整理にかかる普及公開事業の概要

1 現地説明会等の開催

発掘作業の現場で現地説明会を開催し、発掘現場を体感する機会を提供している。また、工期や安全上の理由などから発掘現場での開催ができない場合は、地元市町の公民館や郷土資料館において、調査成果説明会、パネル展示、展示解説等を実施した。令和3年度は5遺跡で5回の現地説明会等を開催し、延べ335名の方が参加した。

なお、現地説明会の開催にあたっては兵庫県の新型コロナウイルス感染症の対応として、検温など健康状態の確認、消毒、マスク着用をお願いし、一方通行など密にならない対策をとった上で実施した。

遺 跡 名	所 在 地	開 催 日	参加者数
登り田遺跡	姫路市継	令和3年8月7日（土）	144人
玉津・田中遺跡	神戸市西区平野町	令和3年9月11日（土）	30人
上戸田遺跡	西脇市上戸田	令和3年9月26日（土）	50人
登り田遺跡	姫路市継	令和3年12月18日（土）	40人
住吉川右岸遺跡	丹波篠山市味間南	令和4年3月1日（火）	71人
	合 計		335人



登り田遺跡



玉津田中遺跡



上戸田遺跡



住吉川右岸遺跡

2 発掘調査速報パネル展示

県立考古博物館のネットワークひろばに、博物館来館者を対象に、現地説明会等で使用した写真パネルを展示ボードに掲示するとともに、現地説明会資料を配付した。

	遺跡名	パネル展示・資料配付期間
1	兵庫津遺跡	令和3年4月1日～令和3年8月31日
2	中村群集墳	令和3年9月1日～令和4年3月31日
3	登り田遺跡	令和3年9月1日～令和4年3月31日
4	池尻東山遺跡・市場南山1号墳	令和4年1月19日～令和4年4月3日

3 発掘調査の状況をHPで情報発信

(公財) 兵庫県まちづくり技術センターのホームページに最新の調査成果を随時更新した。

4 ひょうごの遺跡の刊行

(公財) 兵庫県まちづくり技術センターでは、埋蔵文化財情報誌「ひょうごの遺跡」104号・105号を各4000部刊行・配布し、最新の発掘調査の成果を公開した。また、これまでにセンターが刊行した「ひょうごの遺跡」からデジタルブックを作成しホームページで公開した。

「ひょうごの遺跡」104号（令和3年10月1日発行）

発掘調査の成果 令和2・3年度

- ・鉄器を有する弥生時代後期の集落遺跡
ー上戸田遺跡(西脇市上戸田)
- ・複数の以降面を検出
ー中筋遺跡(姫路市網干区高田)
- ・矢野川左岸に広がる集落跡
ー福井池の下遺跡(相生市若狭野町)
- ・古墳時代後期の水田跡
ー天神条里(加東市掬鹿谷)
- ・明石川右岸の沖積地の集落跡
ー曙町遺跡(神戸市西区曙町)
- ・集落の端を確認
ー有年牟礼・井田遺跡(赤穂市有年)

特集

- ・埋蔵文化財におけるデジタル技術の活用報告
- ・コロナ禍の中の現地説明会
ー感染予防対策と新たな試みー



- ・コロナ禍での発掘調査速報会
ひょうごの掘り出しもの～第2回～
- ・豊富な副葬品

「ひょうごの遺跡」105号（令和4年3月2日発行）

発掘調査の成果 令和3年度

丘陵斜面に営まれた集落

ー池尻東山遺跡（小野市池尻町）

複数の埋葬施設をもつ古墳

ー市場南山1号墳（小野市市場町）

但馬と播磨の境界周辺の集落

ー中村遺跡（養父市大屋町）

古代～中世の居住域を確認

ー玉津田中遺跡 No. 164 地点

（神戸市西区平野町）

中世の屋敷地と水田跡

ー玉津田中遺跡 No. 175 地点

（神戸市西区平野町）

特集

- ・県内の埋蔵文化財担当職員向け専門技術研修
- ・登り田遺跡での発掘調査現場研修

ひょうごの掘り出しもの～第3回～

- ・経塚のある風景



5 「発掘体験～掘ってみよう むかしの遺跡～」の実施

兵庫県まちづくり技術センターの事業を一般県民にPRすると共に、考古学に興味を持ってもらい埋蔵文化財保護について理解を得るために実際の発掘現場において、自分の手で古代の土器を掘り出す体験を実施した。令和3年10月30日（土）に登り田遺跡（姫路市継）で実施し、21名の参加があった。



発掘体験



遺物洗浄体験

6 バックヤード見学ツアーの開催

収蔵庫や出土品整理室など博物館の舞台裏を見学するツアーを、県立考古博物館と（公財）兵庫県まちづくり技術センター埋蔵文化財調査部の共催で、夏休み期間中に開催予定とした。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染対策のため、1回の参加人数を減らし、2回に分けて4回（合計8回）実施予定にしていたが、第3回と第4回は、感染症拡大防止のため中止となった。

	実施予定日	①13:30～14:20 ②14:30～15:20
第1回	令和3年7月28日（水）	13人
第2回	令和3年8月 4日（水）	29人
第3回	令和3年8月18日（水）	（中止）
第4回	令和3年8月25日（水）	（中止）



土器接合見学



金属製品保存処理見学

令和 3 年度埋蔵文化財調査年報

発行日 令和 6 (2024) 年 3 月 31 日
編 集 公益財団法人兵庫県まちづくり技術センター 埋蔵文化財調査部
発 行 兵庫県立考古博物館
〒675-0142
兵庫県加古郡播磨町大中 1 丁目 1 - 1
TEL 079-437-5589 FAX 079-437-5599
<http://www.hyogo-koukohaku.jp/>
